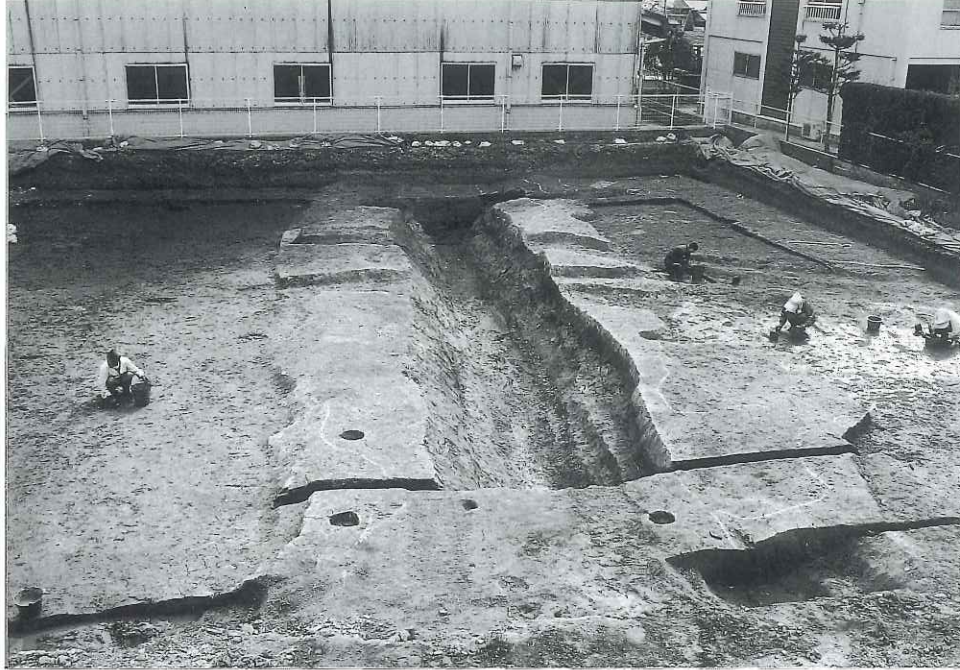


栗東町埋蔵文化財調査報告 2000年度 年 報



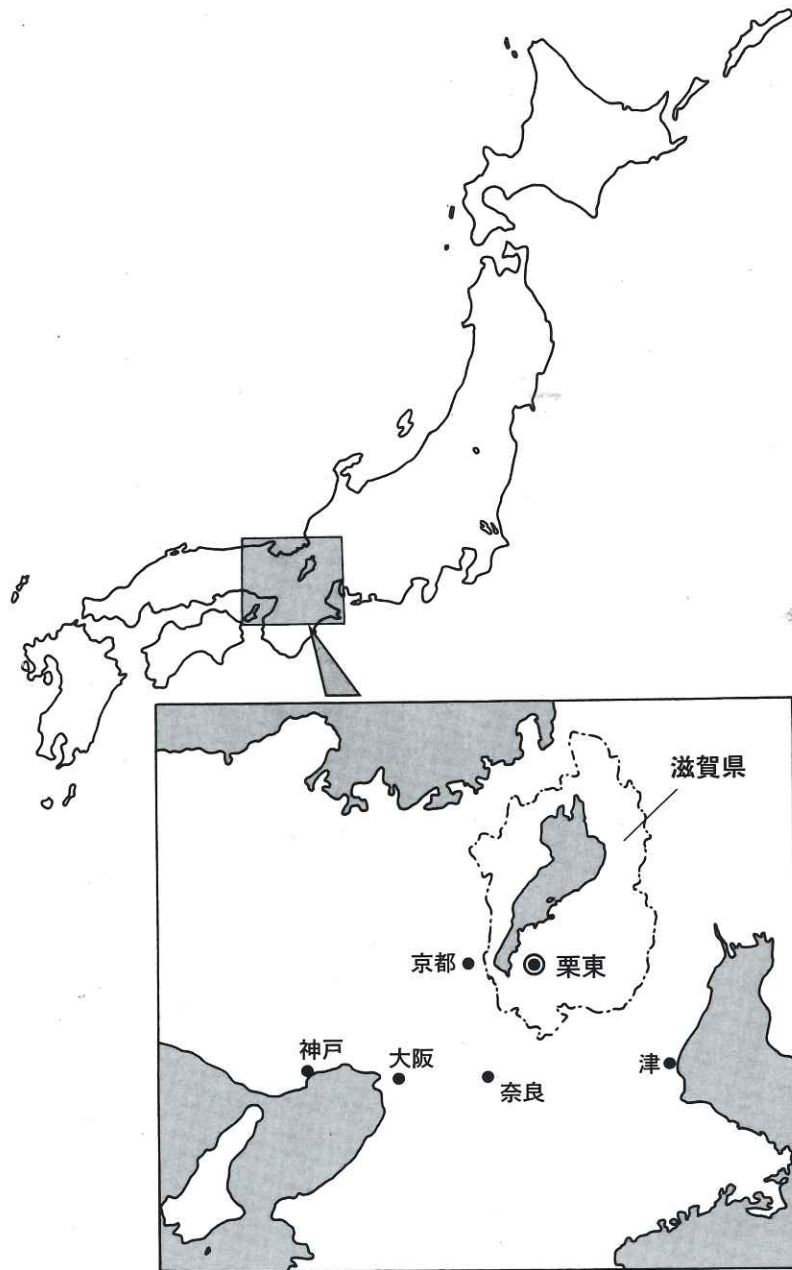
2001. 11

栗 東 市 教 育 委 員 会
(財)栗東市文化体育振興事業団

表紙の写真（上）下鈎東遺跡
（堤をもつ大溝）
（下）林遺跡
（竪穴住居）

—— 栗東町埋蔵文化財調査報告 ——

2000年度 年 報



2001. 11

栗 東 市 教 育 委 員 会
(財) 栗 東 市 文 化 体 育 振 興 事 業 団



▲ 下鉤東遺跡出土木製盾



▲ 辻遺跡玉杖出土状況



▲ 中沢遺跡翡翠製勾玉出土状況

ごあいさつ —20周年を迎えて—

栗東市は、今年10月に市制移行し、滋賀県で8番目の市となりました。昭和38年の名神高速道路インターチェンジ設置に伴い、湖南地域における経済、流通の拠点として大きく発展した町です。また同時に、貴重な文化財も多く文化の町でもあります。

昭和57年に設立された財団法人栗東市文化体育振興事業団は、文化と体育の振興を図るという大きな目的のなかで、設立当初より、埋蔵文化財の調査、研究、啓発、活用の充実を図る活動をしてまいりました。

そしてこのたび設立20周年を迎えるにあたり、住民の皆様をはじめ関係諸機関のご指導およびご援助はもちろん、永年にわたって郷土の歴史と文化を明らかにし、埋蔵文化財などの歴史的遺産を後世に伝えることにご尽力を投じてこられた関係者の努力に対して、改めて心からのお礼と感謝を申し上げる次第であります。

20周年を契機に使命の重大さを再認識し、今後とも埋蔵文化財をはじめとする歴史的遺産が、住民の方々の文化の向上と発展のために役立つものとなることを願い、文化財保護についての認識を高めることに寄与していく所存であります。今後とも皆様方より一層のご指導並びにご助言を賜りますことをお願いいたしまして、発刊に際してのごあいさつとさせていただきます。

2001年11月

財団法人栗東市文化体育振興事業団

理事長 野村政夫

例 言

1. 本書は、財団法人栗東町文化体育振興事業団が受託した、2000年（平成12年）度埋蔵文化財発掘調査事業の概要と、栗東町教育委員会による国庫補助事業および町事業の概要である。
2. 調査にあたっては滋賀県教育委員会の指導助言を得て、栗東町教育委員会が主体となり財団法人栗東町文化体育振興事業団が実施した。尚、国庫補助事業および町事業は栗東町教育委員会が実施した。

3. 調査体制は以下のとおりである。

栗 東 町 教 育 委 員 会	生涯学習課	課 長	芝 田 博 孝
	文化財保護係	係 長	清 水 好 洋
(財)栗東町文化体育振興事業団		主 査	松 村 浩
		主 事	小 林 露 水
	埋蔵文化財調査課	課 長	仙 石 龍 岳
		課長補佐	平 井 壽 一
		主 査	近 藤 広
		主 査	猿 向 敏 一
		主任技師	佐 伯 英 樹
		主任技師	雨 森 智 美
		主任技師	藤 岡 英 礼

4. 栗東町は2001年10月より市制移行したため、発行機関は市に変更している。
5. 本書の執筆は各調査担当が行い、編集は執筆者の意向のもと近藤が行った。
6. 調査内容中の調査位置図は、スケールを指定しているもの以外はすべて5千分の1である。

7. 調査参加者

調 査 員	畑本 陽子	森 智美			
調査補助員	青木タキ子	石原 恵子	井上 恵子	井上 妙子	井上 良子
	上田 和江	大岡 道代	太田 絵美	大島 洋己	木下 政子
	久徳 良子	教野 妙子	北野ふみえ	駒井 伊助	国松 好子
	芝原 慶子	渋谷 享一	園田 菊江	鷹羽 淳	竹村ヒロ子
	谷口由香里	中井 好子	千代 清美	辻井一二美	平松しず子
	堀部アキ子	森野 靖子	横山 こと		
整 理 員	岩根 隆子	奥村美枝子	木村三津子	穴戸 貴子	宮嶋八重美

目 次

巻頭カラー図版 1

巻頭カラー図版 2

ごあいさつ	—20周年を迎えて—	1
例	言	2
目	次	3
事 業 報 告		4
栗東町遺跡地図		6
遺 跡 位 置 図		7
受託事業一覧表		9
1	辻 ^{つじ} 遺 跡	10
2	辻 遺 跡	14
3	高 ^{たか} 野 ^の 遺 跡	16
4	林 ^{はやし} 遺 跡	18
5	岡 ^{おか} 遺 跡	22
6	岡 遺 跡	26
7	下戸山古墳 ^{しもとやまこふん} 遺跡	28
8	下 ^{しも} 鉤 ^{まがり} 東 ^{ひがし} 遺 跡	30
9	中 ^{なか} 沢 ^{ざわ} 遺 跡	32
10	総 ^{へそ} 遺 跡	34
11	十 ^{じゅう} 里 ^り 遺 跡	36
国庫補助事業・町事業一覧表		39
12	辻 遺 跡	40
13	下戸山古墳遺跡	41
14	小槻大社古墳群 ^{おつきたいしゃこふんぐん}	42
15	霊仙寺 ^{りょうせんじ} 遺 跡	44

事業報告

<発掘調査事業>

- ◎現地調査受託事業件数……11件
- ◎国庫補助・町事業件数……4件
- ◎整理調査事業件数……1件（昭和61年度調査）

<展示公開>

収蔵企画展示

場所：センター（1階）収蔵展示コーナー
期日：年2回（平成12年4月～平成13年3月）
内容：収蔵資料のテーマ展示
「井戸」（4月～9月）
「この遺跡はいつのもの？」（10月～3月）

調査情報速報展示

場所：センター（2階）展示コーナー
期日：随時
内容：最新調査成果の展示公開
坊袋遺跡（4月～6月）十里遺跡（7月～9月）小槻大社古墳（10月～11月）
岩畑遺跡（12月～1月）下鉤遺跡（2月～3月）

<公開事業>

- ・『下鉤東遺跡現地説明会』
日時：平成12年4月22日(土)
参加人数：79名
内容：弥生時代の土塁（堤）付き大溝を発見
- ・『岡遺跡現地説明会』
日時：平成12年5月28日(土)
参加人数：77名
内容：栗太郡衙の東端区画溝を発見
- ・『林遺跡現地公開』
日時：平成12年12月9日(土)
参加人数：21名
内容：古墳～室町時代の集落の調査

<普及啓発事業>

- 1) 出土文化財センター入門講座（文体事業団共催）
『子ども考古学自由研究クラブ』
会場：センター・文化財学習室
日時：平成12年7月22日(土)・23日(日)
参加人数：のべ46名
内容：古代生活の体験学習、土器の観察、火おこし



▲調査情報速報展示(十里遺跡)



▲現地説明会（下鉤東遺跡）



▲調査研究報告会（高橋氏講演）

2) 出土文化財センター入門講座（文体事業団共催）

『聞く！見る！ふれる！ふるさとの歴史』『海を渡ってきた文化』

会場：センター・文化財学習室

日時：平成12年10月28日(土)・11月18日(土)・25日(土)

参加人数：のべ57名

内容：「小槻大社10号墳の発掘調査」佐伯 英樹（文体事業団主任技師）

「秦荘町上蚊野古墳の調査について」竹村 吉史（秦荘町教育委員会）

「栗東の渡来文化」近藤 広（文体事業団主査）

3) 出土文化財センター調査研究報告会（文体事業団共催）

『木の埴輪』

会場：センター・文化財学習室

日時：平成13年3月10日(土)

参加人数：46名

内容：『木の埴輪』の講演、報告、検討会

講演：高橋美久二 氏（滋賀県立大学）

報告：岩崎 茂 氏（守山市教育委員会） 丸山 雄二 氏（長浜市教育委員会）

福永 清治 氏（野洲町教育委員会） 雨森 智美（文体事業団主任技師）

4) 出土文化財センター教室（文体事業団協力）

会場：センター・文化財学習室

件数：11件（492名）葉山東、金勝、治田東小学校他

内容：勾玉づくり指導、町内遺跡の説明、調査スライド映写会等

5) 古道ウォーク（栗東健康ウォークとの合同開催）

コース：大津市田上町枝～太神山・不動寺～大鳥居

日時：平成12年11月11日(土)

内容：周辺の遺跡や文化財にふれ、地域の歴史文化への理解を深める。

6) 冊子等の発行

『栗東町埋蔵文化財発掘調査1999年度年報』

『1984年度栗東町埋蔵文化財発掘調査資料集』

『埋蔵文化財シンポジウム 邪馬台国時代の大型建物』

『はっくつ 2000 栗東町話題の発掘調査』

『栗東文化財ウォークNo.2 金勝寺揺石・盃状穴』

7) 職員の派遣（講師、指導、発表等）

近藤 広・藤岡 英礼『葉山小学校・探検クラブ』平成12年6月9日

近藤 広・佐伯 英樹『熊野本古墳群範囲確認調査指導』平成12年6月14日

佐伯 英樹『守山市埋蔵文化財センター・歴史入門講座』平成12年8月19日

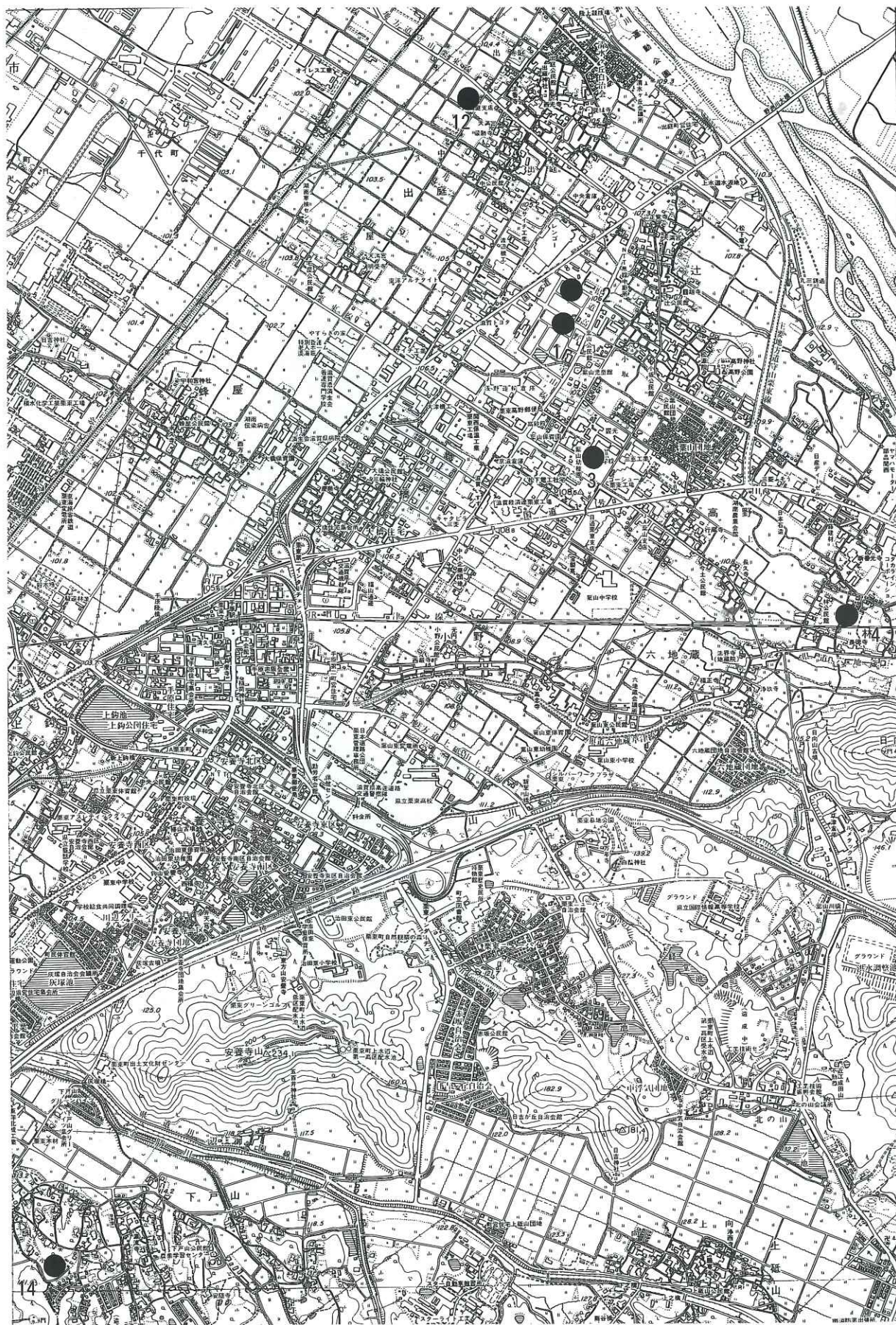
近藤 広『大宝西公民館・歴史講座』平成12年9月29日

雨森 智美『奈良国立文化財研究所研究集会』平成12年11月16日・17日

近藤 広『鈴鹿市考古博物館・特別展関連講演』平成12年11月23日

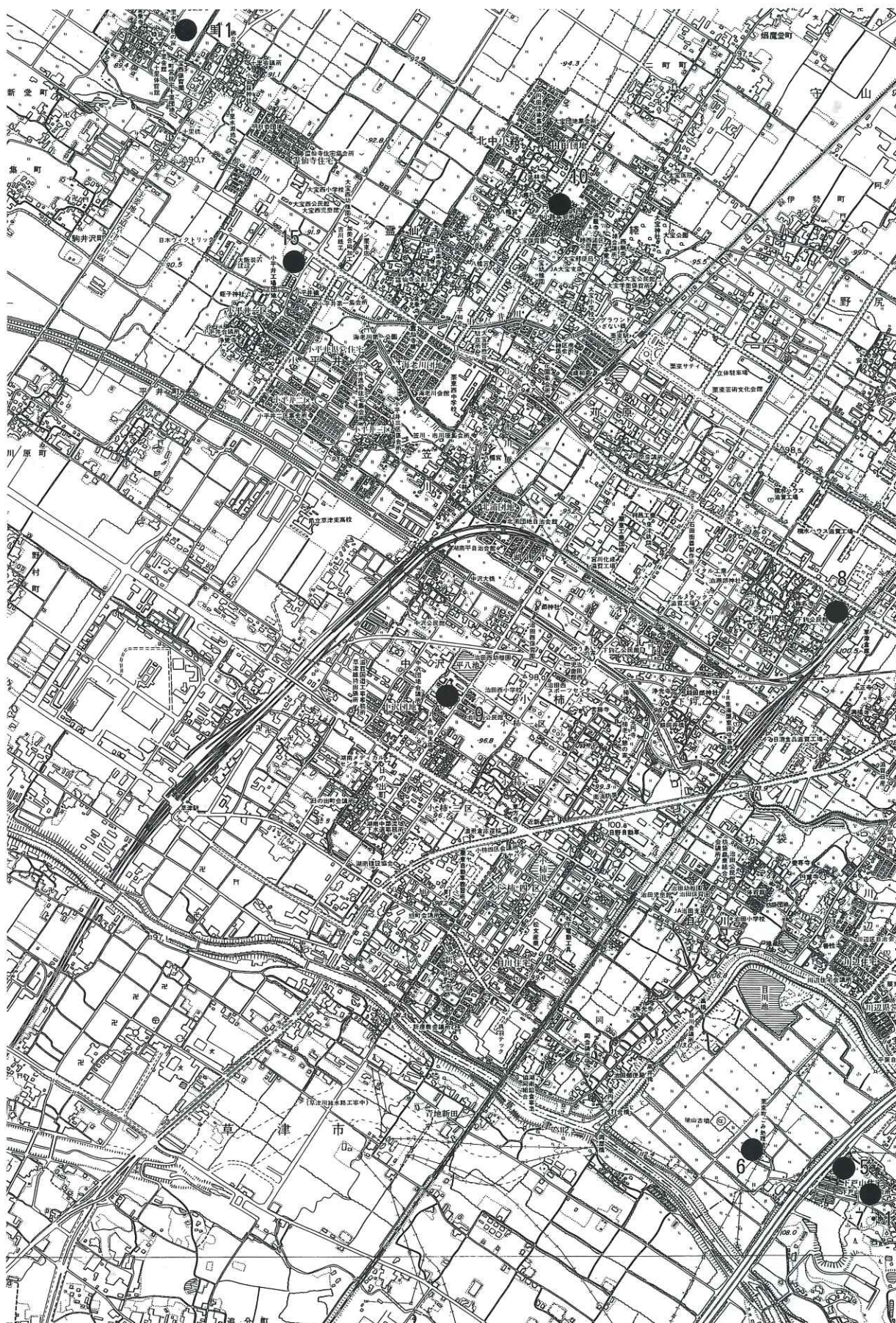
雨森 智美『草津市立玉川中学校3学年選択社会科』平成12年12月6日・13日

近藤 広・佐伯 英樹『滋賀県埋蔵文化財センター研究会』平成13年3月2日



遺跡位置図①

S = 1 : 20,000



遺跡位置図②

S = 1 : 20,000

財団法人栗東町文化体育振興事業団

埋 蔵 文 化 財 発 掘 調 査

2000年度受託事業調査一覧表

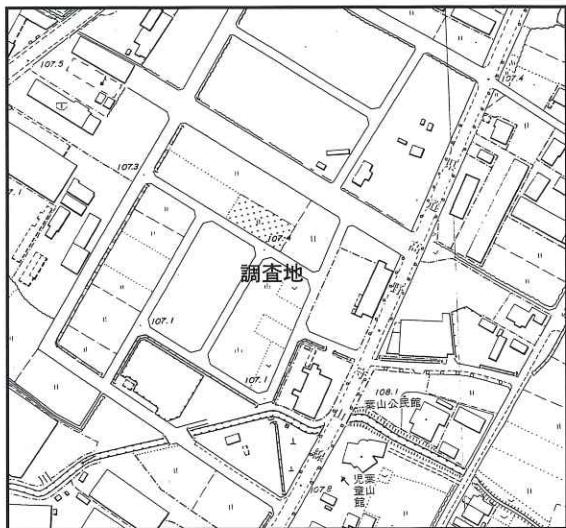
No.	遺跡名	所在地	調査原因	現地調査機関	調査面積	調査結果	ページ	担当
1	辻	高野字北さるがう790	宅地造成	2000.4.19～2000.7.3	839㎡	竪穴住居（古墳）、掘立柱建物、溝、ピット（奈良～平安）、玉作関連遺物	10	藤岡
2	辻	辻字八王子668	共同住宅建設	2000.11.13～2000.12.8	200㎡	土坑、大溝、ピット、河川（古墳～平安）、縄文土器	14	藤岡
3	高野	高野310	学校建築	2000.9.4～2000.10.11	600㎡	竪穴住居（古墳）、柱穴（平安）土坑、溝（古墳～近世）	16	藤岡
4	林	林字西島、盤塚、上ノ浦	道路建設	2000.5.24～2001.2.10	3000㎡	竪穴住居、掘立柱建物（古墳～平安）掘立柱建物、土坑（室町～近代）	18	近藤
5	岡	下戸山字高井1517-1	宅地造成	2000.4.17～2000.6.30	765㎡	区画溝、土坑墓（奈良～平安）	22	佐伯
6	岡	岡字高井420・420-1	排水施設工事	2001.1.10～2001.2.7	270㎡	土坑、溝、ピット、坑列（古墳～近世）	26	藤岡
7	下戸山古墳	下戸山字野海道1542-1他	宅地造成	2000.10.12～2000.11.8	218㎡	土坑、溝、柱穴、河川（平安～近世）	28	佐伯
8	下鉤東	下鉤1560他	事務所建設等	2000.3.17～2000.4.27	1000㎡	大溝、梁状遺構（弥生）耕作痕、掘立柱建物、溝（古墳～平安）	30	近藤
9	中沢	中沢字上畑183-1他	マンション建設	2000.11.13～2001.1.20	500㎡	溝、方形周溝墓、井戸状遺構（弥生～古墳）、翡翠製勾玉	32	佐伯
10	滝	北中小路字森ノ東1819-1他	宅地造成	2000.9.25～2000.10.4	135㎡	方形周溝墓（弥生）、掘立柱建物、溝（中世）	34	佐伯
11	十里	十里393-1他	宅地造成	2000.6.26～2000.9.22	2500㎡	河川、溝、土坑（弥生）	36	佐伯

① 辻 遺 跡

調 査 地 栗東町大字高野北さるがう790

調査期間 2000年4月19日～7月3日

調査面積 839m²



調査地位置図

はじめに

辻遺跡は野洲川左岸に位置し、縄文時代を上限とし、古墳時代には大規模な集落を形成したことが知られる。

当調査区は、縄文時代後期の配石遺構や古墳時代の玉作遺構が検出された、1994～1997年度調査区に隣接する。

基本層序

調査区の基本層序は上層から順に、層厚約50cmの黄色土（現代の整地層）、層厚約30cmの灰色土（耕土）、層厚約10cmの黄褐色粘質土を経て、茶褐色系シルトの遺構面に至る。

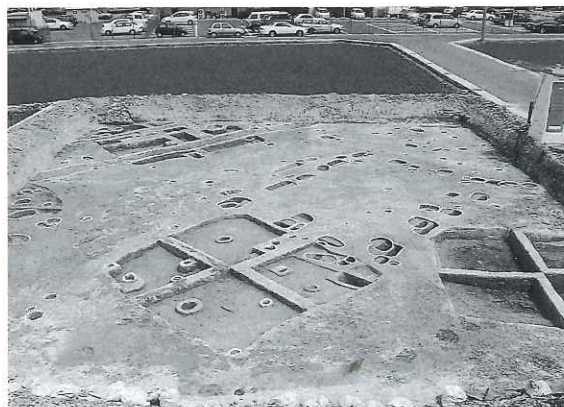
主要遺構の概要

調査区からは、古墳時代から近世の遺構が見られる。古墳時代の遺構には、竪穴住居6棟とSP-1が該当する。個々の遺構については詳述を避けるが、出土遺物の状況から4～5世紀代に存続したと思われる。住居の埋土からは、碧玉製品や破片が多数出土した。特にSH-5は、床面に管玉や破片、5cm上の埋土から砥石が出土し、隣接調査区と同じく玉作を行う住居の存在が確認された。また、

SP-1からは、碧玉製の玉杖の鐲が出土した。

古墳時代以降については、奈良～平安時代の所産となる、正南北方向の掘立柱建物、溝がある。S D-79・83は、検出深10cmを測り、平安時代の緑釉陶器が出土した。

SD-1は、現在の辻村の境溝であり、近年埋め立てられた。下層から室町時代の播鉢が出土し、当該期に今に続く村境が形成された可能性がある。(藤岡)



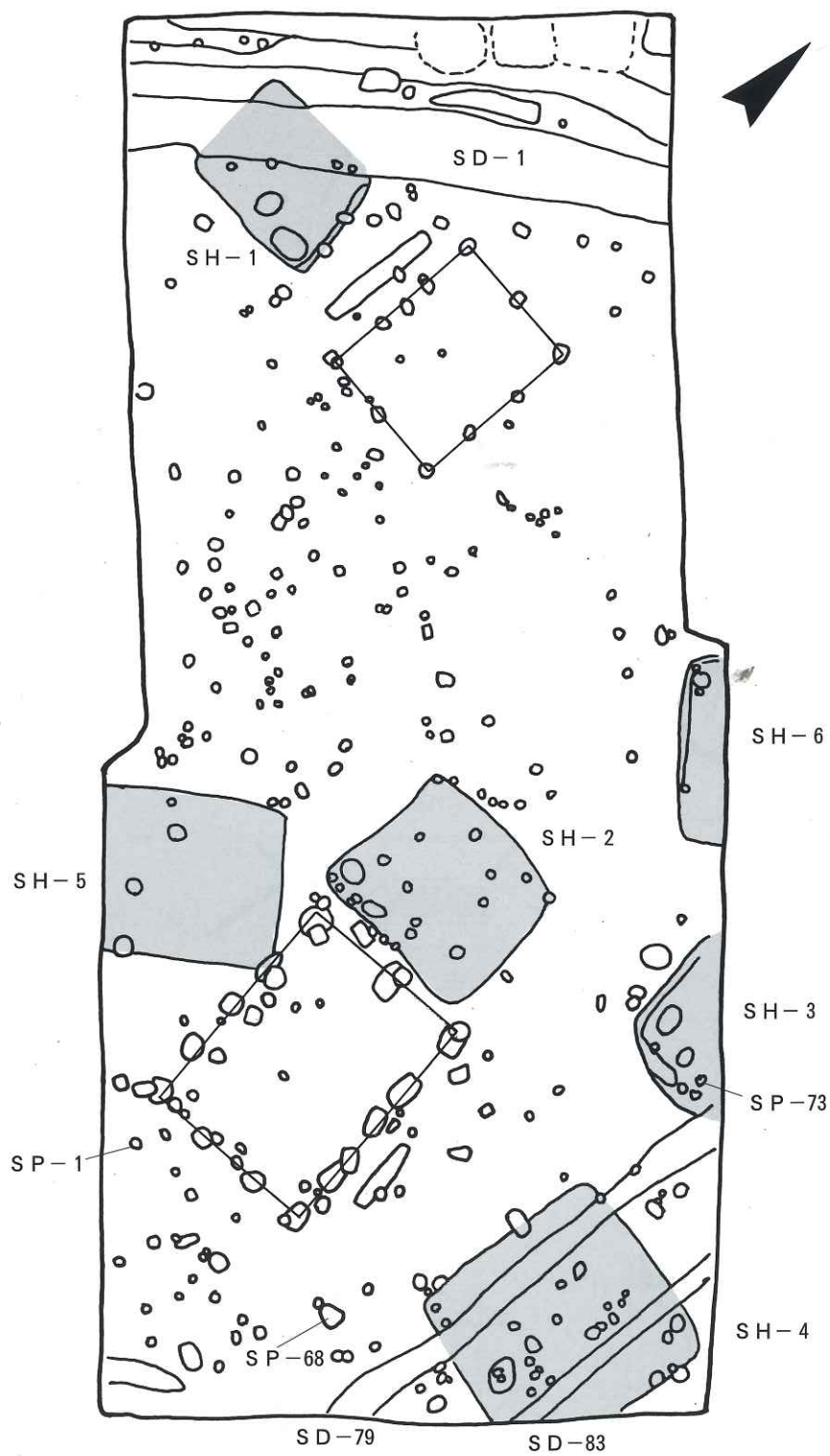
調査区全景（南側）



SH-4 全景

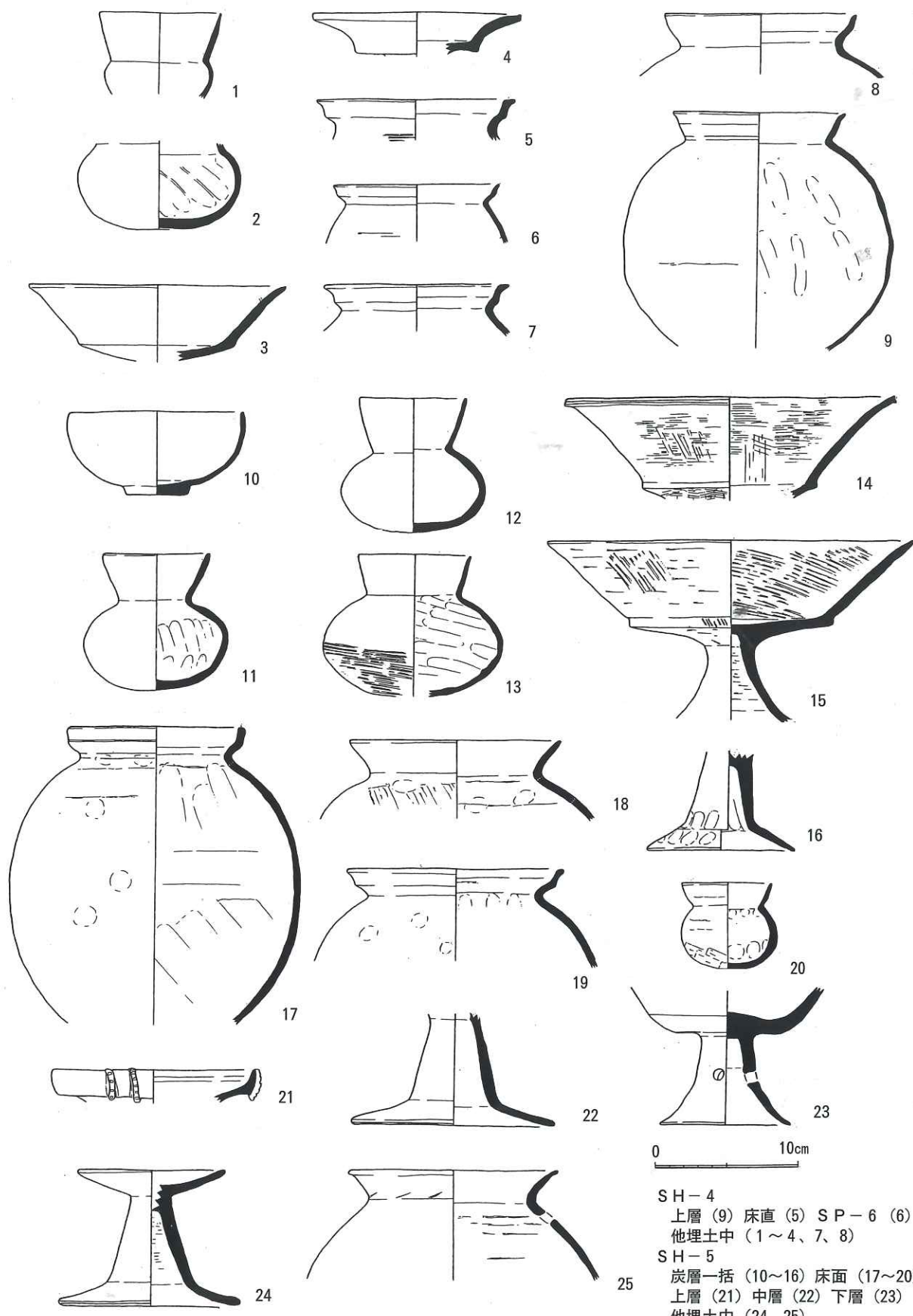


掘立柱建物

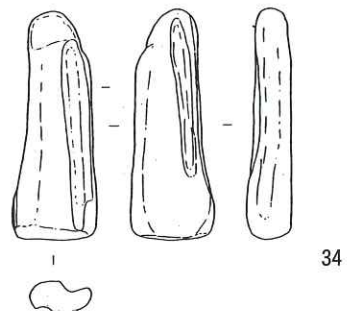
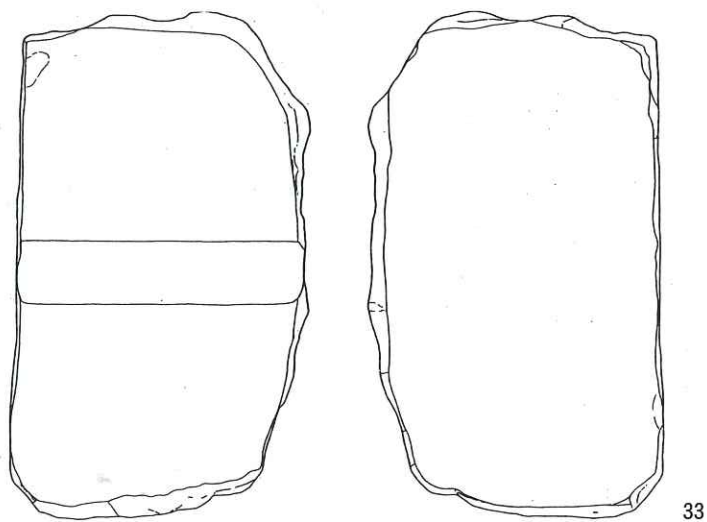
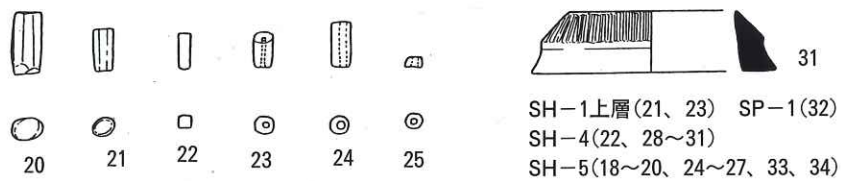
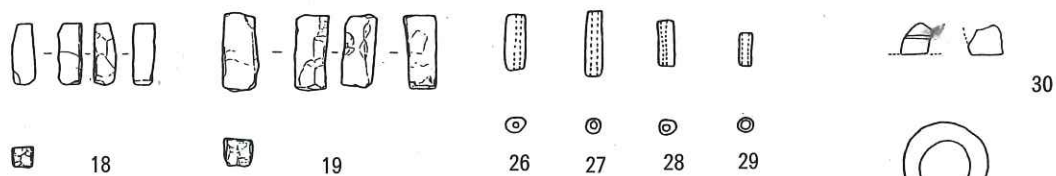
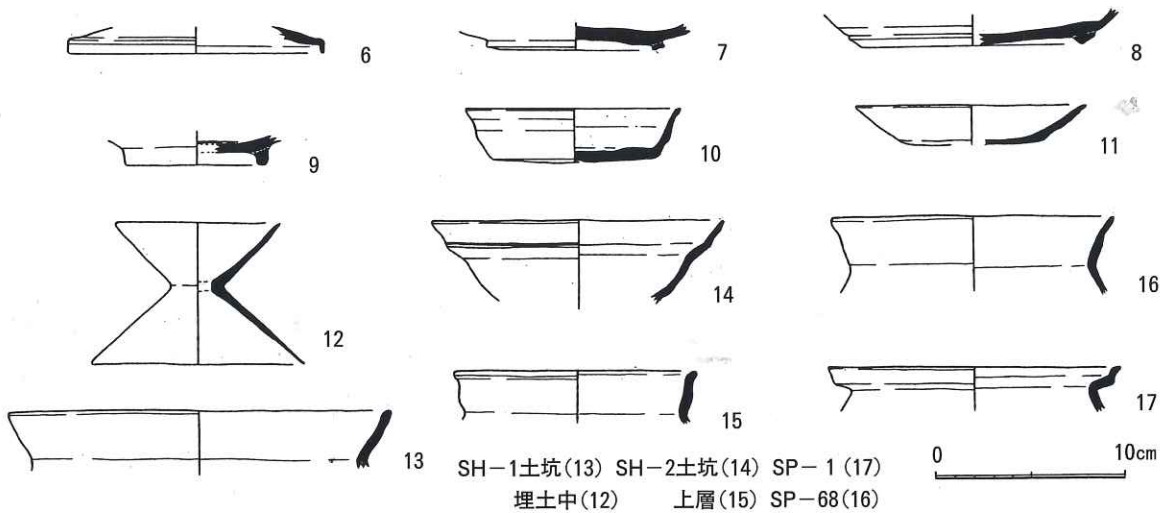
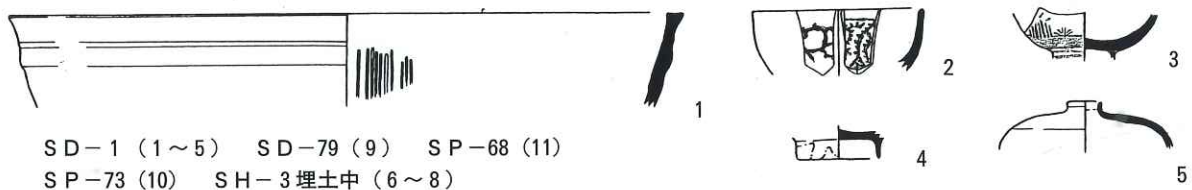


0 10m

調査地遺構図



遺物実測図



出土遺物実測図

玉作関連遺物 S = 1/2
(砥石33、34のみ S = 1/4)

② 辻 遺 跡

調 査 地 栗東町大字辻八王子668

調査期間 2000年11月13日～12月 8 日

調査面積 200m²



調査地位位置図

本調査区は、古墳時代の竪穴住居が検出された1998年度調査区の東端にあたる。

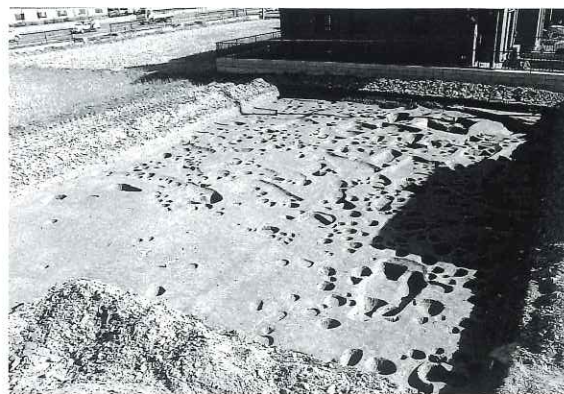
調査区の基本層序は、上層から順に層厚30cmの灰褐色土（耕土）、層厚10cmの赤褐色土（床土）を経て、諸遺構が展開する黄色味を帯びた茶褐色シルト層（第1遺構面）に至る。

本層を約20cm下げると、縄文時代の所産と思われる第2遺構面に至る。本層は、第1遺構面に比べて黄色味が無いが、土質ともに顕著な差は認められなかった。

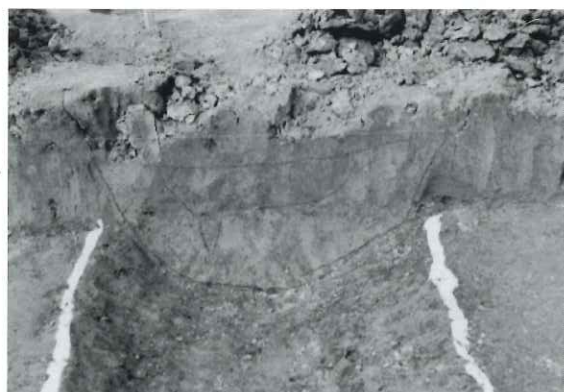
主要遺構について述べると、第1遺構面では、平安時代以降のピット・土坑・溝が展開するが、辻鋳物師による粘土採掘土坑により破壊を受けている。

第2遺構面については、楕円形の掘り込みを2基検出したが、遺物については、第1・第2遺構面の間から、縄文土器片を確認したに留まった。

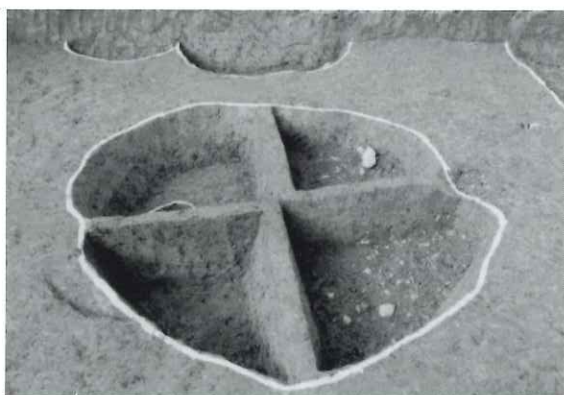
（藤岡）



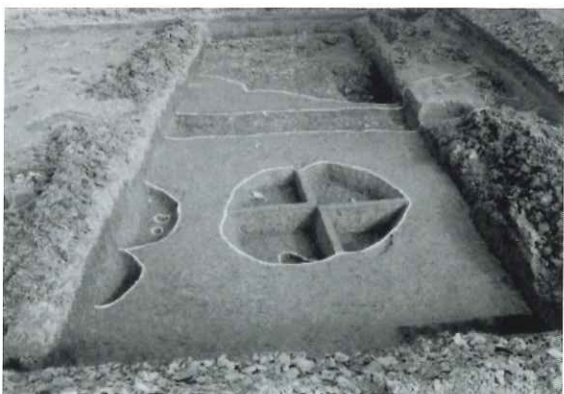
調査地全景



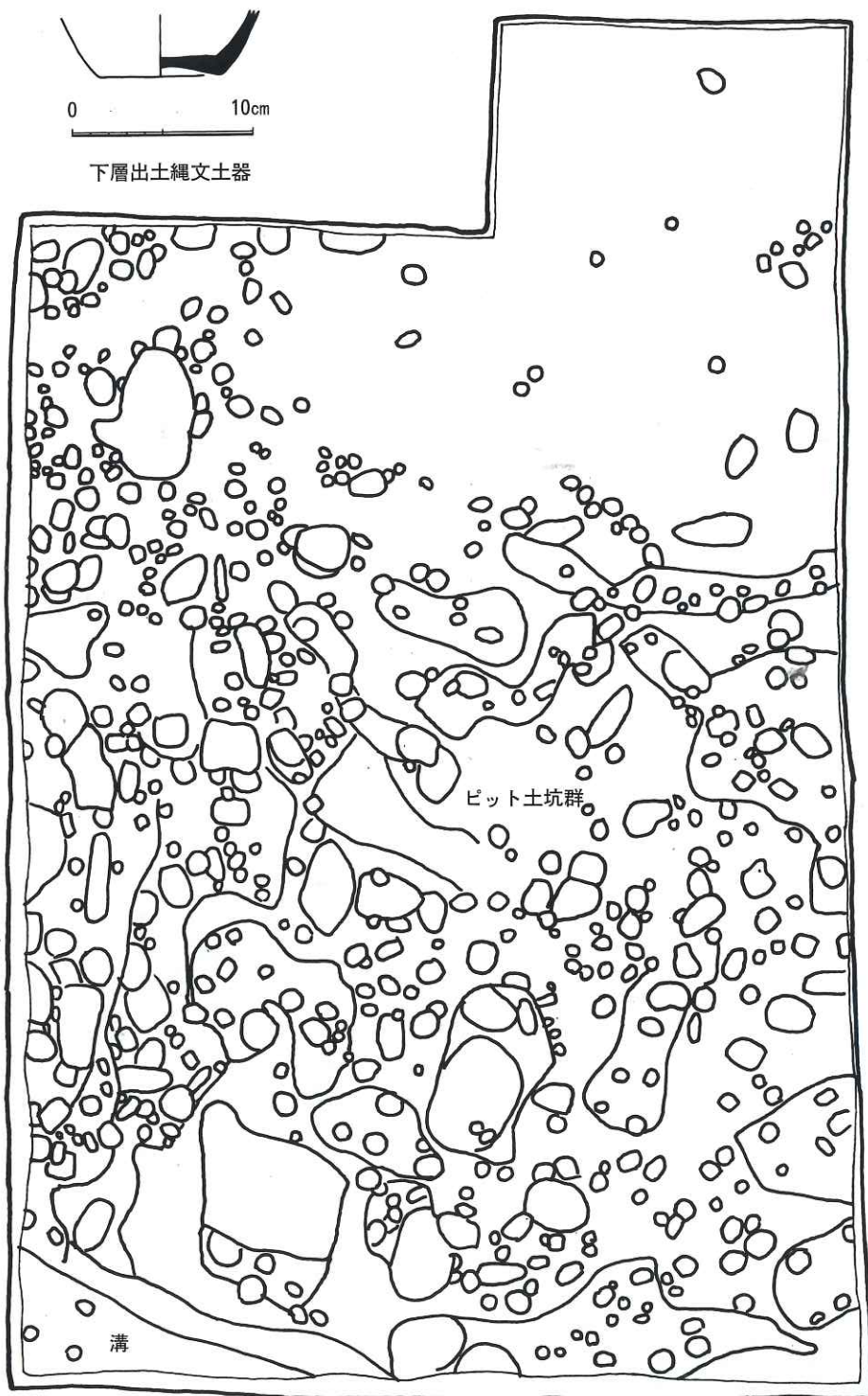
溝断面



下層遺構



下層遺構全景



調査地遺構図

③ 高野 遺 跡

調 査 地 栗東町大字高野310

調査期間 2000年 9 月 4 日～10月11日

調査面積 600m²



調査地位置図

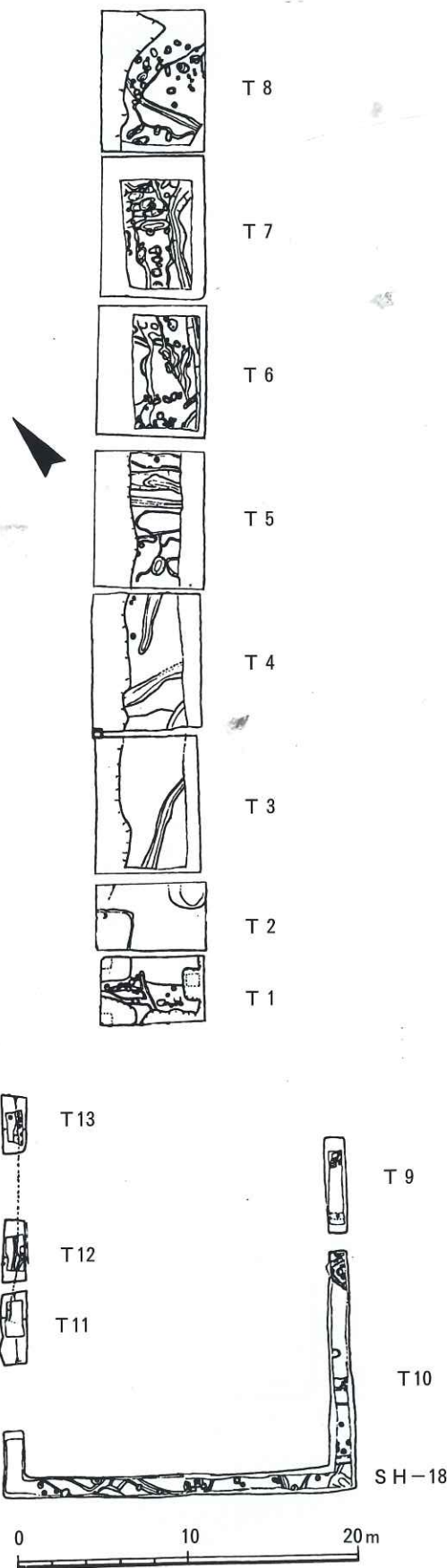
当調査地は、地形図上の台地地形と北側に落ち込む谷地形にまたがって設定された。

調査区の基本層序は、台地側では上層から順に、層厚30cmの碎石層（小学校運動場）、約40cmの灰褐色系粘質土（耕土）約5cmの赤褐色系粘質土（床土）を経て、黄褐色系粘質土の地山（遺構面）に至る。谷地側では、校舎建設で大きく掘削されているが、約1mの校舎基礎を経て、青灰色系粘質土に至る。

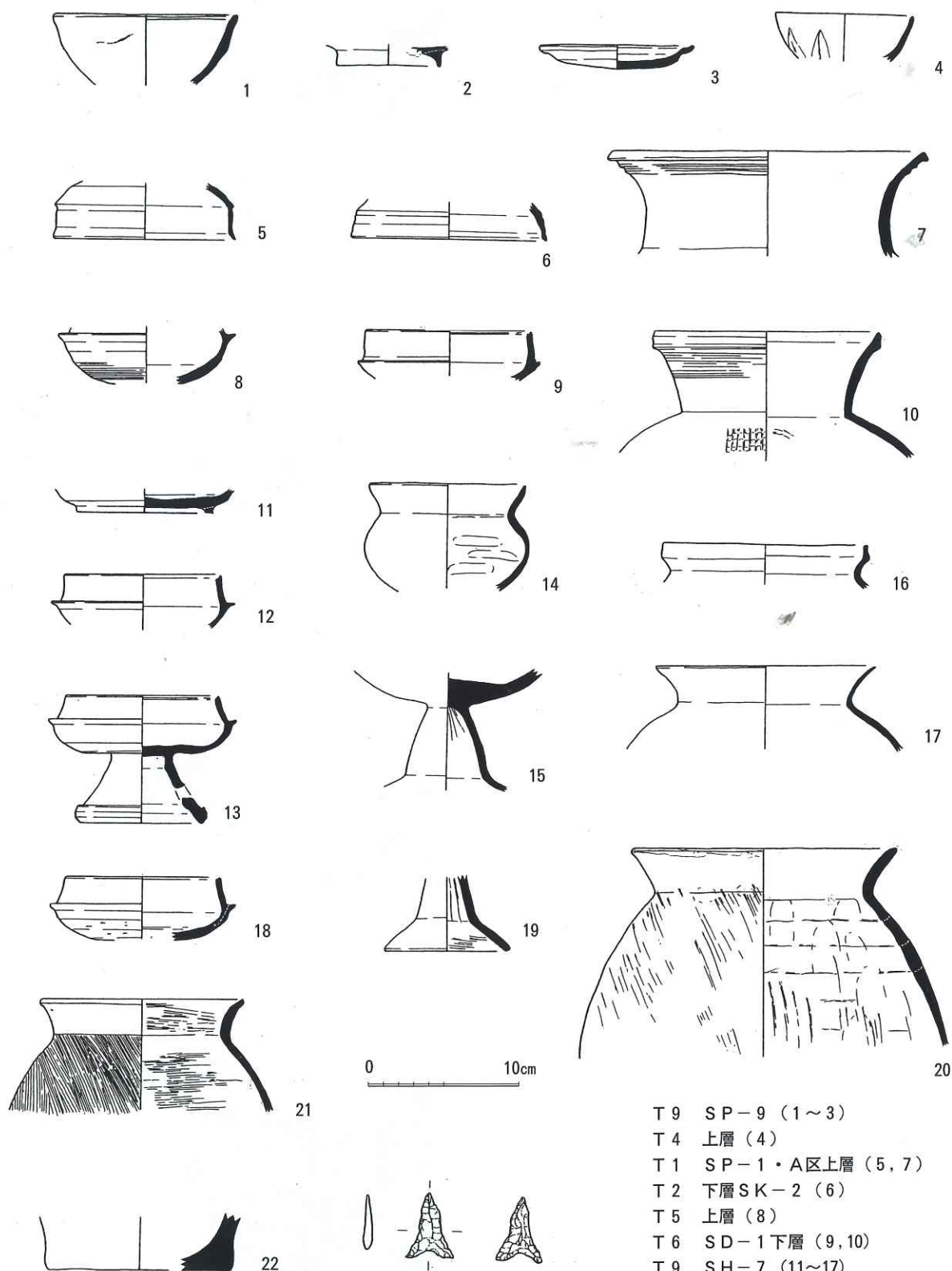
台地地形にあたる調査区の南側トレンチについて述べると、古墳時代の遺構では、竪穴住居4棟を検出し、SH-18ではカマドを検出した。古墳時代以降では、平安時代のピットが認められ、ての字口縁状土師皿が出土した。谷地形上に存在する北側のトレンチ7では時期不明の波板状の掘り込みがあり、性格を含め今後の課題となる。（藤岡）



T 9・SH-18



調査地遺構図



出土遺物実測図

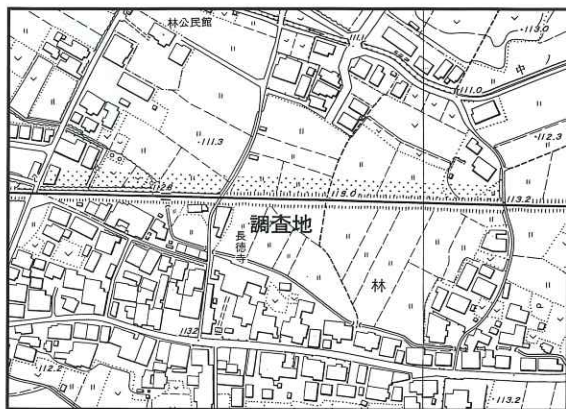
- T 9 SP-9 (1~3)
 T 4 上層 (4)
 T 1 SP-1・A区上層 (5, 7)
 T 2 下層SK-2 (6)
 T 5 上層 (8)
 T 6 SD-1下層 (9, 10)
 T 9 SH-7 (11~17)
 T 9 SP-31 (18)
 T 9 SH-18 (19, 20)
 T 10 SD-8 (21)
 T 8 SD-5 (22)
 T 7 下層 (23)

④ 林 遺 跡

調 査 地 栗東町大字西島、盤塚、上ノ浦

調査期間 2000年5月24日～2001年2月10日

調査面積 約3000m²



調査地位置図

林遺跡は、野洲川によって形成された扇状地の上部に位置し、遺跡の南側には近世東海道が東西に通過する。また「大塚」「車塚」などの塚の付く地名がいくつか残っており、埋没した古墳の存在が推定されている。

今回の調査は町道路建設に伴うもので、約3000m²を調査した。確認された遺構、遺物はおおむね4時期に区分できる。

1 期（縄文時代）

明確な遺構は確認できなかったが、T1における古墳時代以降の生活面の下層から、縄文土器小片を数点確認した。またT3からは、奈良時代以降の溝からではあるが、打製の石斧（9）が出土している。

2 期（古墳時代～飛鳥時代）

調査区西端のT6を中心に竪穴住居や土坑、河道が確認されている。竪穴住居は、一辺が約5mの方形プランで、北辺の右隅にかまどを持つ。明確な支柱穴はもたないが、壁溝中に小ピットが存在することから柱穴の役割を果たしていた可能性がある。また西側半分の床面が一段下っており、通常よく見られる住居とはやや異なる。時期は出土した土器から7世紀後半頃の所産と考えられる。1988年



T 1 焼土坑とピット



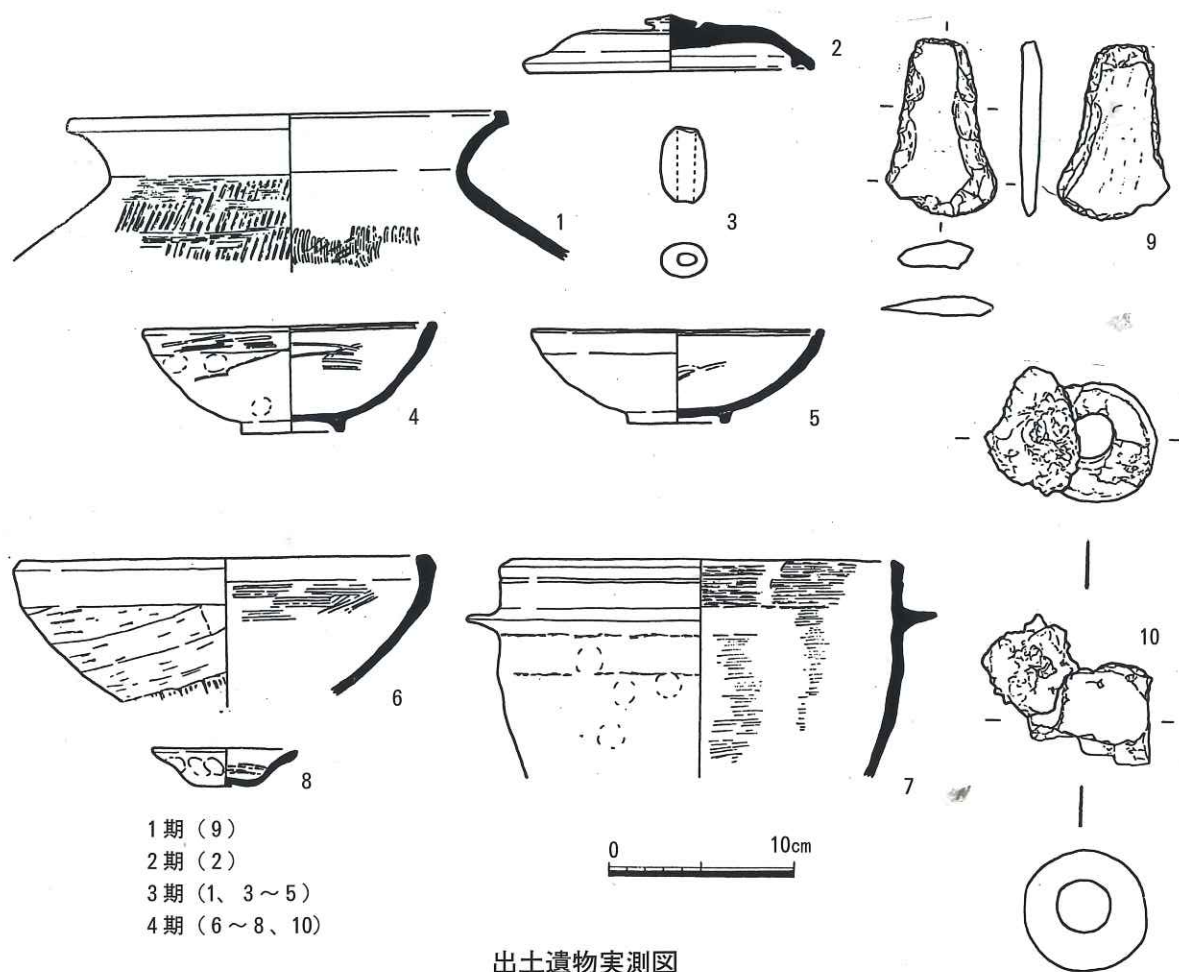
T 3 東側土坑305周辺



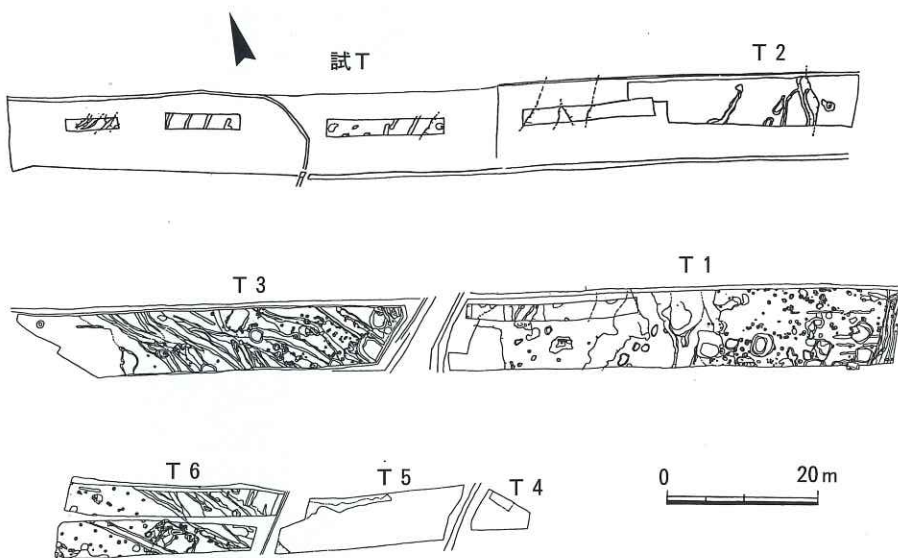
T 6 北側掘立柱建物と焼土坑



T 6 南側竪穴住居



出土遺物実測図



調査地遺構図

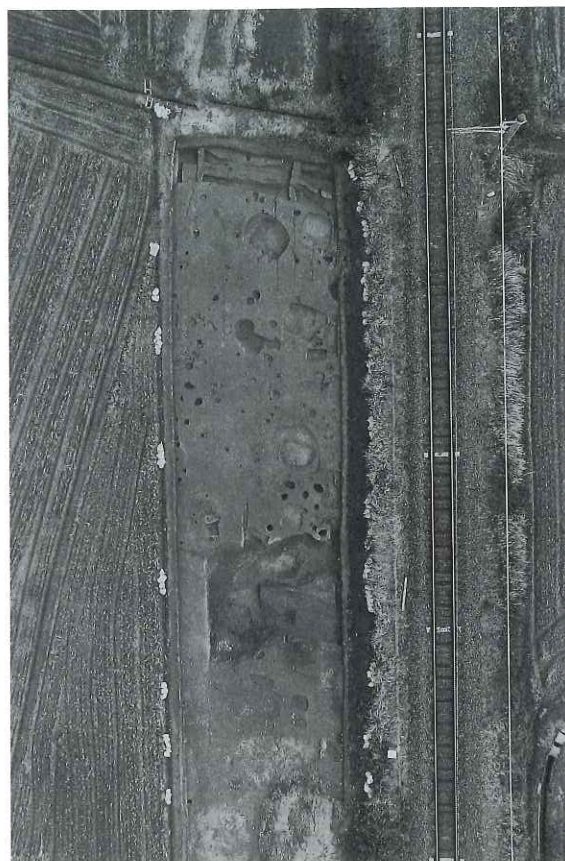
年度の調査で確認された古墳時代の竪穴住居と合わせると合計7棟確認されたことになる。

3期（奈良時代～平安時代）

この時期はT6で掘立柱建物や土坑が確認されている程度で、大半の調査区では溝、河道の確認にとどまった。掘立柱建物は、4間×4間（東西約8m、南北約8m）で、出土遺物よりおおむね12世紀後半の所産と考えられる。土坑は、炭化物を含み、壁面を中心に焼けたものが確実なもので2基存在する。時期は、遺物が小片のため確定しにくいだが、遺構の切り合いや、埋土の観察から掘立柱建物と同時期か、比較的近い時期のものと推定される。

4期（室町時代以降）

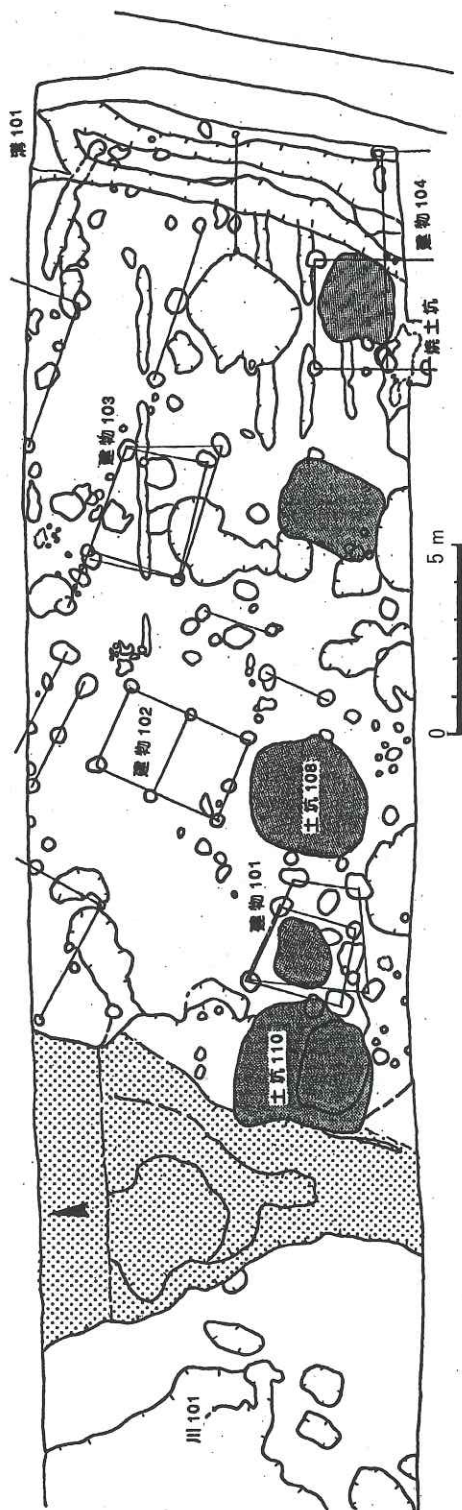
3期に溝や河道であった場所が埋まってから新たに集落が形成される時期である。掘立柱建物は、10棟以上確認され、切り合い関係や埋土の違いから少なくとも2時期以上存在する。土坑は、一辺が約2～3mの規模をもつものが一定の間隔をもって規則正しく配列している。形態は隅丸方形もしくは円形で、深さは、浅いタイプと深いタイプの2種が存在する。機能の違いによる差と思われるが今後の検討課題である。遺物で注目されるものは、鉄滓、炉壁、轆の羽口（10）などの鍛冶もしくは铸造などの鉄製品の生産に関わる遺物がまとまって出土したことである。これらの遺物は、主にT1西端の河道やT3東端の土坑から出土した。またT1の東端に焼土、炭化物を多量に含んだ浅い土坑が存在し、その中に鋳型らしき破片も含まれていた。『高野郷字ウハウソ田地売券』（天文2年=1533年）の中に「いわいづか」の「鍛冶、了道・次郎左衛門父子」とあるように、林の集落で鍛冶をしていたという記述が存在している。このことから今回出土した遺構や遺物が証明しているように付近に鍛冶もしくは铸造の工房が確実に存在していたことがいえる。今後の調査に期待される。（近藤）



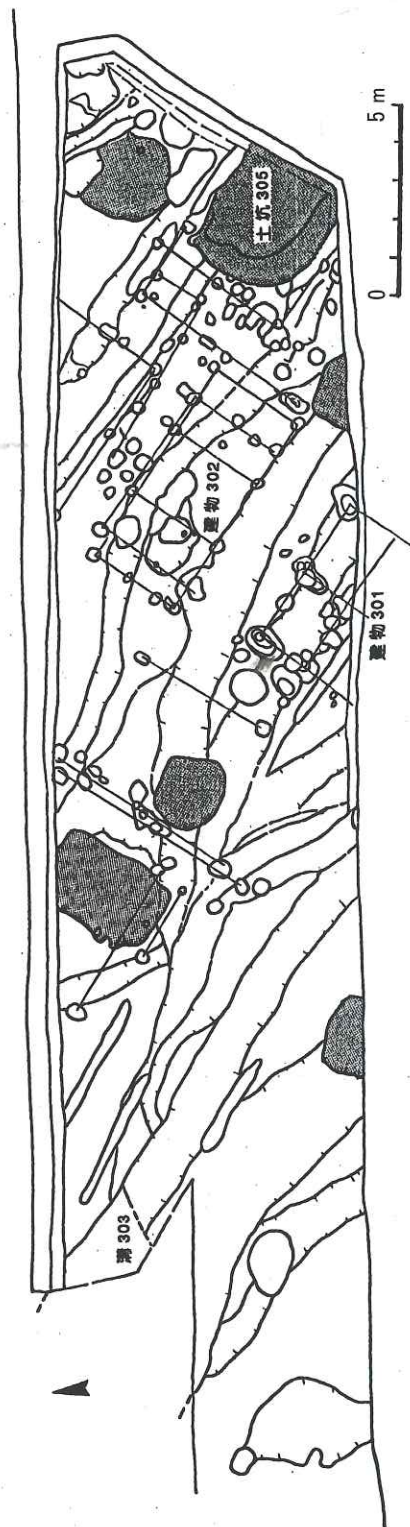
T1 東側調査区（上空より）



T3 東側調査区（上空より）



T 1 東側調査地遺構図



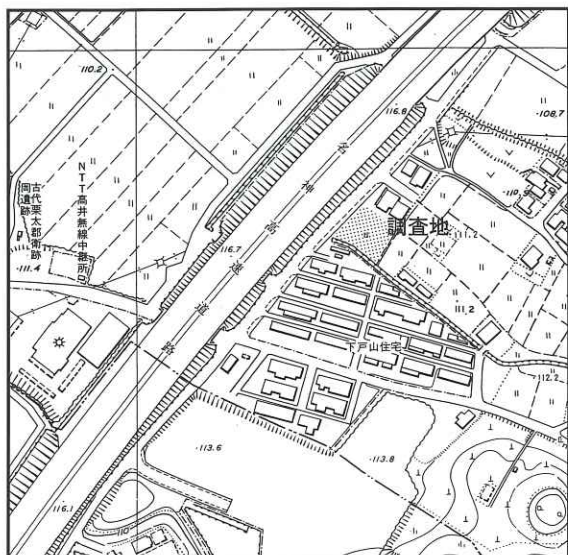
T 3 東側調査地遺構図

⑤ 岡 遺 跡

調 査 地 栗東町大字下戸山字高井1517-1

調査期間 2000年4月17日～6月30日

調査面積 765m²



調査地位置図

はじめに

岡遺跡は、沖積平野を望む丘陵地の先端付近に立地している。1987年度の圃場整備事業にともない確認された遺跡で、区画溝を伴う大規模な掘立柱建物群が計画的に配置された様子が明らかとなり、近江国栗太郡衙跡であることが確認された。

同一丘陵上には、北谷11号墳、下戸山古墳、地山古墳、小槻大社古墳群など4世紀後半から6世紀にいたる首長墓群が築かれている。また、式内社の小槻大社の存在は、在地の有力氏族である小槻氏が古墳群と郡衙造営設置に深くかかわったことを物語っている。

郡衙中心部の郡庁とその西側は、地元の理解の上に現在地下保存されている。一方、郡衙域の名神高速道路を挟んだ東側については開発に伴い発掘調査を実施している。

遺構検出面は黄色粘質土で、0.25mの耕作土と0.2mの灰色砂質土を取り除くと現れる。標高は110.6mである。

出土遺構と遺物

検出遺構は区画溝2条と柱穴群、土坑墓1基などである。

調査区西端の溝SD1は、幅3m、深さ0.7m、断面形態は逆台形を呈し、調査区内で途切れている。埋土は下層中層は自然堆積であるが、上層は人工的に埋められていた。遺物は溝底から須恵器杯身の転用硯(1)が出土した。下層出土遺物は2～6で、中層の遺物は8～10、上層の遺物は少ないが7の杯身などが出土している。この状況からSD1は7世紀後半に掘削され、8世紀前半には中程まで埋まり、その後埋め戻されたことがわかる。なおSD1は1994年度に本調査区の北側で滋賀県教育委員会により調査され郡衙の東端を区画すると報告された溝と同一のものである。

SD3はSD1の東側18mに平行に掘られた溝である。規模及び形態はSD1と類似する。調査区南端付近で、幅と深さを減じており、この付近で途切れるようだ。遺物は9～10世紀代の灰釉陶器(11～13)が出土したため郡衙廃絶期の溝と考えたが、12世紀頃の黒色土器片が3点混入しているため、時期を降ろして考える必要もある。

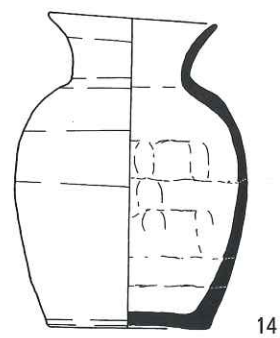
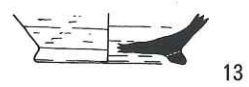
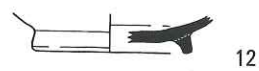
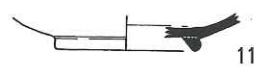
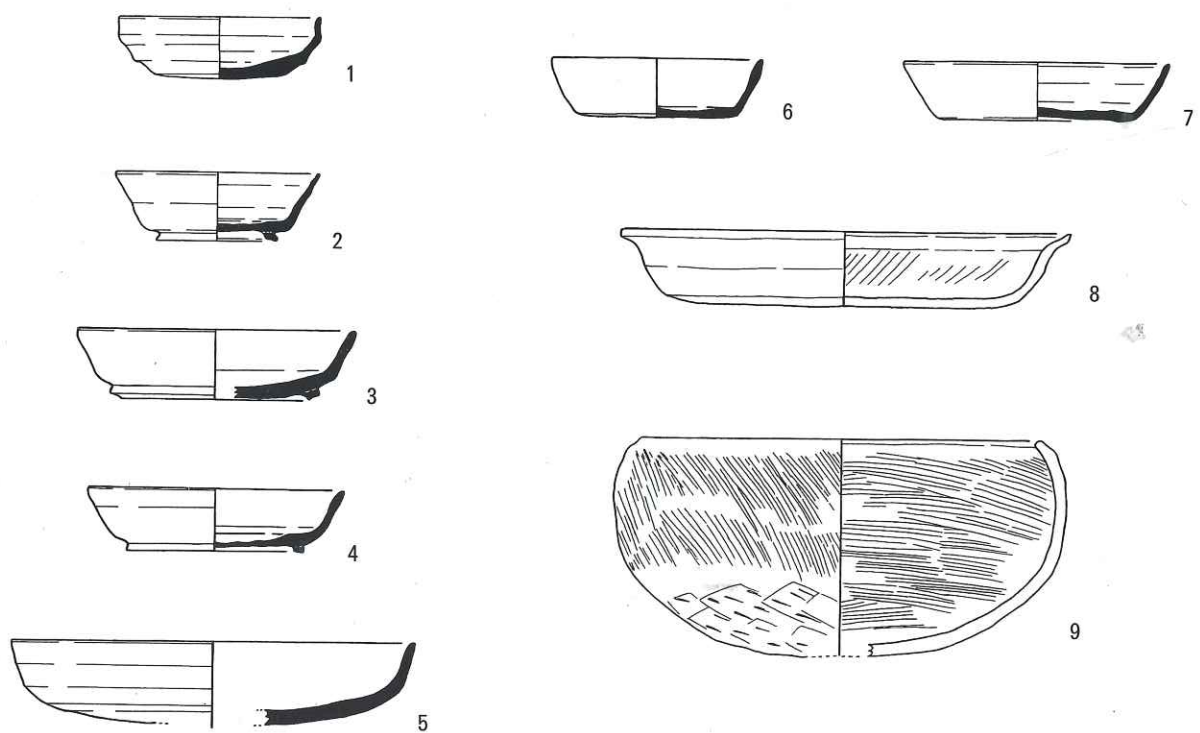
なお、この溝の底部には地山を掘り残して成形した畦状のものが溝に直交して設けられていた。規模は幅0.5m、高さ0.3mを測る。これにより水量調整がなされたのであろう。

その他、土坑墓SK2が検出された。平面は直径1.3mの円形で、深さは0.5m。10世紀後半の須恵器壺(14)を正位置に埋納し、蓋をするように石が2個置かれていた。状況から骨壺と考えられる。(佐伯)



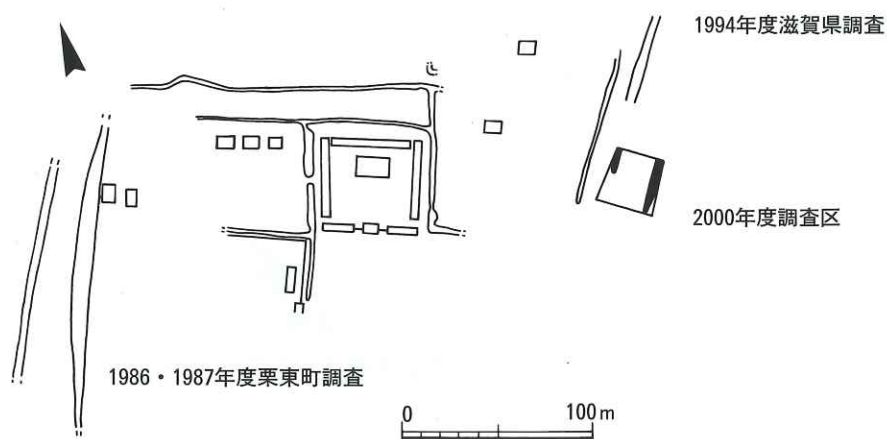
0 10m

調査地遺構図

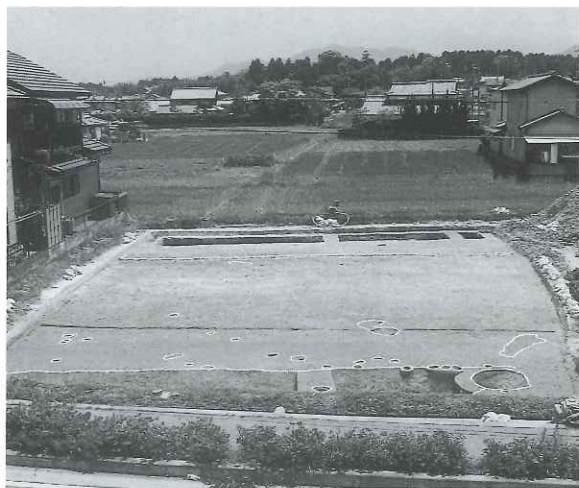


0 10 20cm

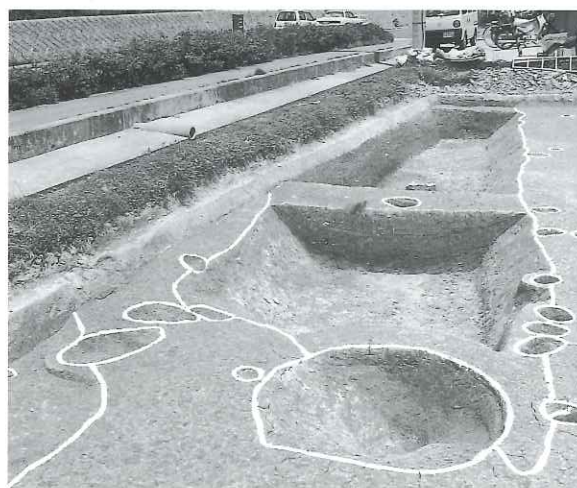
出土遺物実測図



栗太郡衙遺構配置模式図



調査区北東部全景



SK2とSD1



SD3の畦状遺構



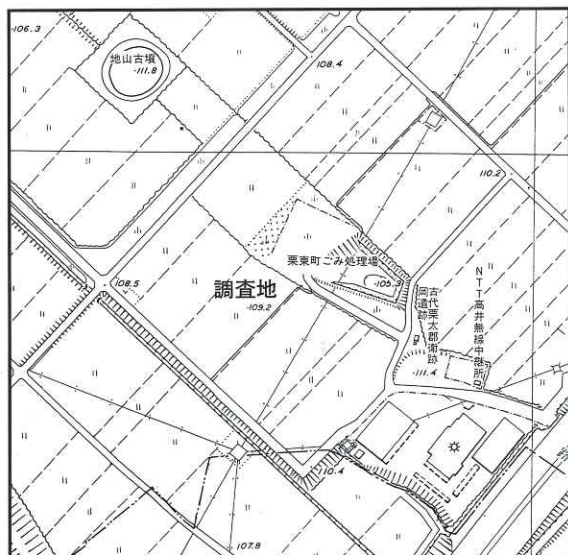
SK2 壺

⑥ 岡 遺 跡

調 査 地 栗東町大字岡字高井420ほか

調査期間 2001年1月10日～2月7日

調査面積 270m²



調査地位位置図

岡遺跡は栗太郡衙の推定地として知られ、奈良時代から平安時代を中心とした掘立柱建物や区画溝の存在があり、古墳時代には古墳群が存在していた。

今回の調査地は、郡衙中心の北西にあたり、郡衙域と推定される西側大溝の西外側にあたるため、郡衙推定が課題となった。

基本層序

調査区の基本層序は、上層から順に層厚10cmの耕土、80cmの黄褐色系シルト（現代に搬入された池の埋土）、50cmの青灰色系粘質土（近世以降の池の堆積土）を経て、古代遺構の展開する地山面となる黄褐色系の粘質土に至る。この地山は、江戸時代に開削された溜池により遺構の大部分が破壊されている。

主要遺構の概要

調査区は、北側に古代以前の遺構を残し、ピット・溝・土坑が集中的にみられ、概ね奈良時代に収まるが、SK-1・2は諸遺構の中でも古く、古墳時代の甕等が出土している。

江戸時代に構築された溜池は、トレンチ北

側から南側に向かって次第に傾斜している。柵列の構築時期は不明だが、埋土の状況から溜池に関わるものである。

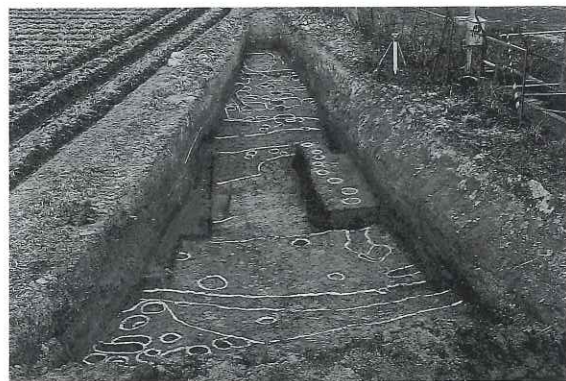
まとめ

今回の調査は、古代遺構が後世に大きく破壊されたため、ピット・溝の規模が不明確で郡衙に平行する時期の遺構の性格がつかめなかったが、遺構の拡がりは確認できた。

郡衙遺構は、西側区画溝以西でも多数のピットが認められるため、郡衙域周辺の展開が今後の課題になる。（藤岡）



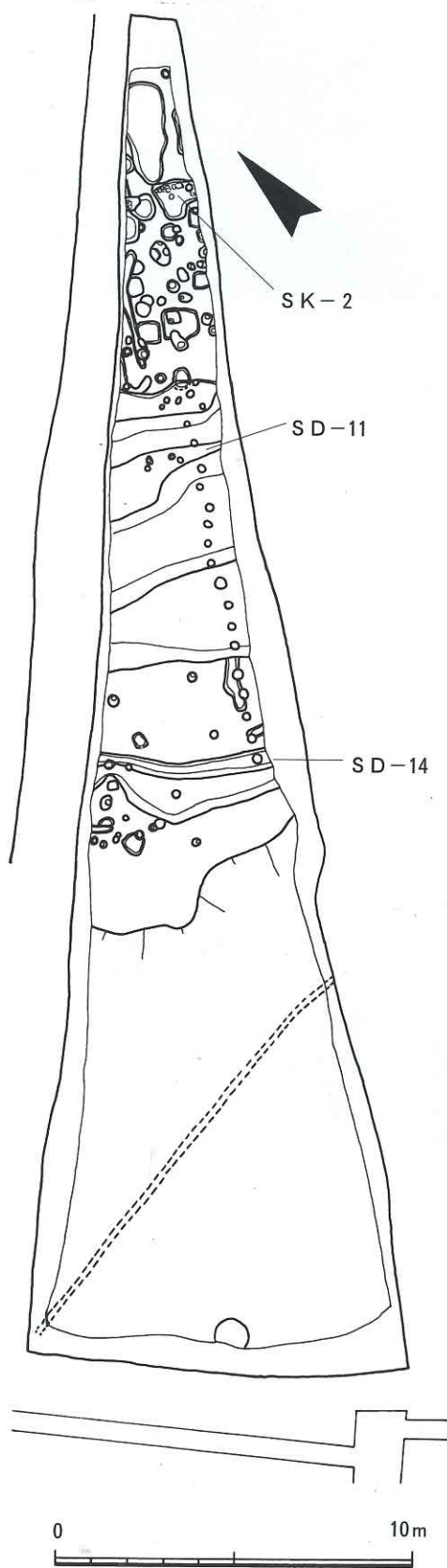
調査区全景南側



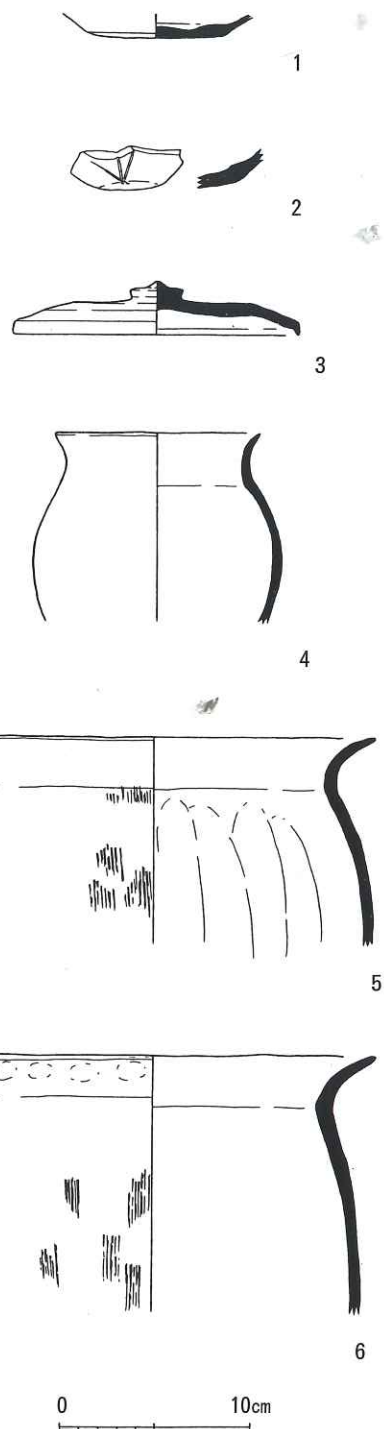
調査区全景北側



SK-2 土器出土状況



調査地遺構図



SD-11(1, 2) SD-14(3) SK-2(4~6)

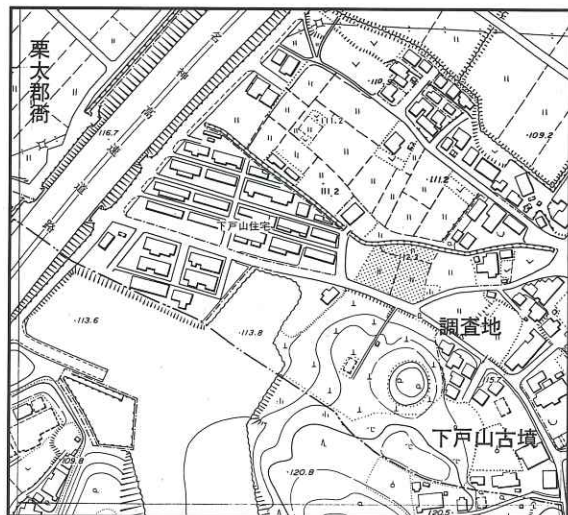
遺物実測図

⑦ 下戸山古墳遺跡

調査地 栗東町大字下戸山字野海道1542-1他5筆

調査期間 2000年10月12日～11月8日

調査面積 218m²



調査地位置図

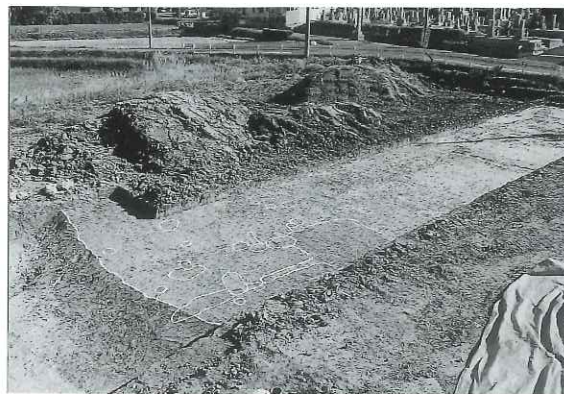
下戸山古墳遺跡は、町域の中央部を占める丘陵の東端付近に位置する。沖積平野を望むこの丘陵は豪族の奥津城となっており、草津市北谷11号墳（105m前方後円墳？）や下戸山古墳（52m円墳？）などの首長墓が築かれている。

調査地は4世紀後半の首長墓である下戸山古墳に隣接することから、削平された古墳の存在が想定されていた。

検出遺構は、中近世の柱穴、土坑、溝、河川である。期待された古墳は存在しなかった。また、郡衙に関する遺構は検出されず、北西130mの区画溝（⑤岡遺跡）が栗太郡衙の東端である可能性が高まった。

土坑SK26は一辺2.3m、深さ0.1m。排水溝状の溝が取り付く。SD56は幅1m、深さ0.3m。断面逆台形の溝で、近世陶磁器片が出土した。調査区北端では河川改修以前の高井川を検出した。幅5～7m、深さは0.7mである。

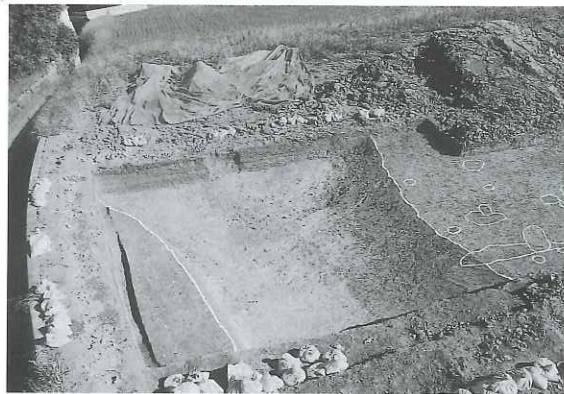
（佐伯）



検出状況



完掘状況（後は下戸山古墳）



旧高井川



調査区全景



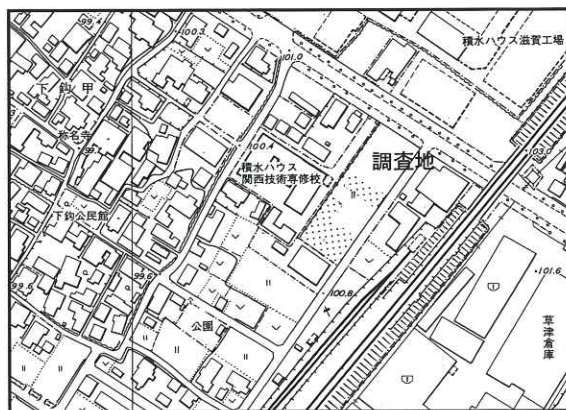
調査地遺構図

⑧ 下 鈎 東 遺 跡

調 査 地 栗東町大字下鈎1560他

調査期間 2000年3月17日～4月27日

調査面積 約1000m²



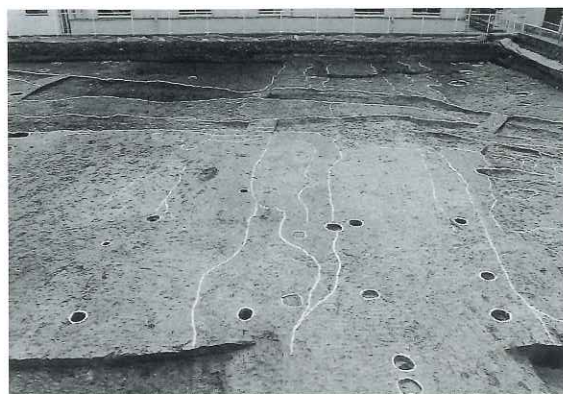
調査地位置図

下鈎東遺跡は、弥生時代の環濠集落や大型建物で著名な下鈎遺跡の東に位置し、南側は「鈎の陣」や古代の東海道関連遺構で知られる上鈎遺跡と接する。1990年度に今回の調査区西隣において調査が行われ、弥生時代後期の大溝をはじめ、奈良時代から平安時代の掘立柱建物、溝などが確認されている。また弥生時代の大溝は、断面形態および大きさから環濠の一部である可能性が指摘されていた。調査は、西側(T1)と東側(T2)にトレンチを設定し行った。

今回確認された遺構、遺物はおおむね4つの時期に区分できる。以下、時期毎に記述していく。

1期(弥生時代後期)

大溝(SD1)は、溝幅3～3.5m、深さ1.5～1.6mで、両側に土塁もしくは堤と考えられる高まりが存在する。高まりの幅は3～3.5m、残存高25～30cm。両者を含めると幅約8～9mになる。これまでの検出長は、約70m以上で、西から北東に向かってやや弧状を描き、T2の溝(SD30)に続く。断面形は、西側が逆台形で、東側にいくにつれてV字状になる。またT2では、大溝から派生し



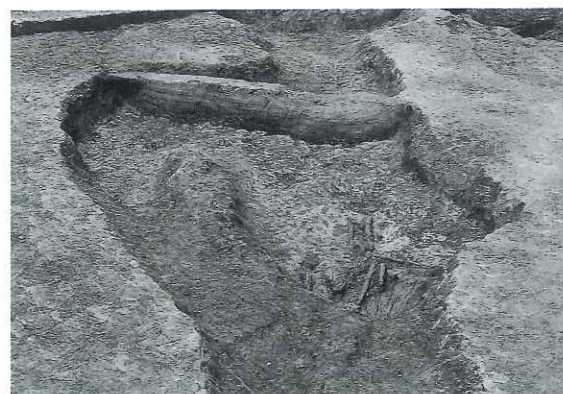
奈良～平安の掘立柱建物・溝



大溝SD-1断面



SD20 土器出土状況



SD-10 梁状遺構

た2状の溝(SD20、30)が東方向に延びる。これらの溝内部には、土坑、梁状遺構と思われるものが存在する。注目すべき遺物に大溝から出土した赤彩された木製盾がある。

2期(古墳～飛鳥時代)

T1の北西隅に、耕作痕と考えられる浅い溝状の窪み(長さ0.5～2m、幅0.3～0.5m)が列をなしている。

3期(奈良時代末～平安時代前半)

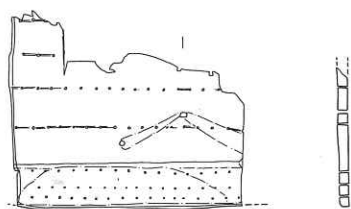
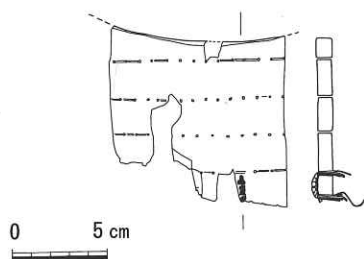
T1の西隅に存在する掘立柱建物(SB1)は、北と西側の一部が調査区外のため全体のプランはつかめない。現状で、2間以上×2間以上(東西6m以上、南北5m以上)である。SD2～SD6もこの時期のもので、SD5とSD6は、ほぼ南北方向に延びている。

4期(平安時代後半)

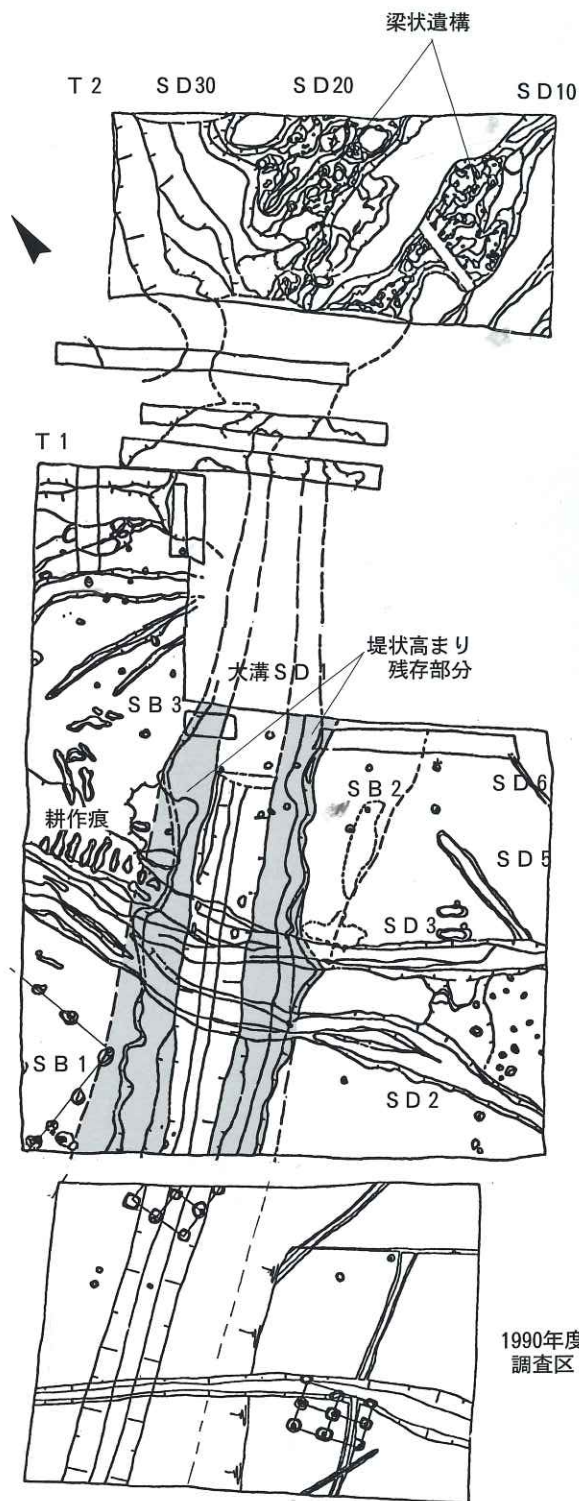
T1の北側(SB3)と東側(SB2)にそれぞれ1棟ずつ掘立柱建物が存在する。

今回確認された大溝の両側に付属する高まりについては、土塁もしくは堤として報告したが、高まりが両側に存在することや、洪水に受けやすい環境にあることを考え合わせると土塁というより堤としての機能をもったものと現段階では考えている。堤的な土塁を持つ例に愛知県・猫島遺跡例があるが、今後同様な遺構の調査例も含めて検討していきたいと思う。

(近藤)



大溝(SD1)出土木製盾



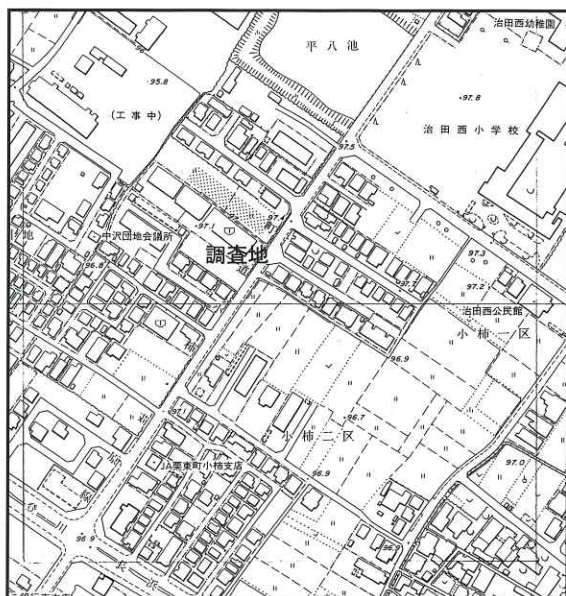
調査地遺構図

⑨ 中 沢 遺 跡

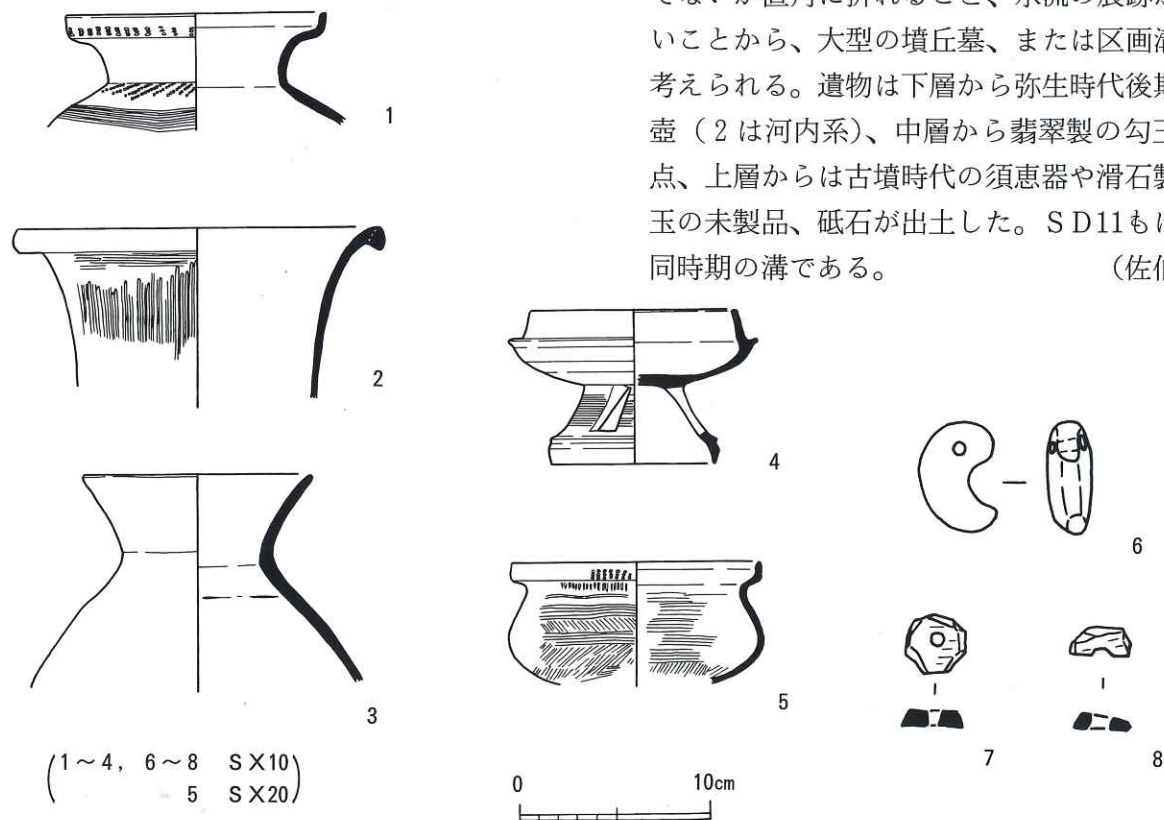
調 査 地 栗東町大字中沢字上畑 183-1・2、184-1

調査期間 2000年11月13日～1月20日

調査面積 500m²



調査地位置図



出土遺物実測図

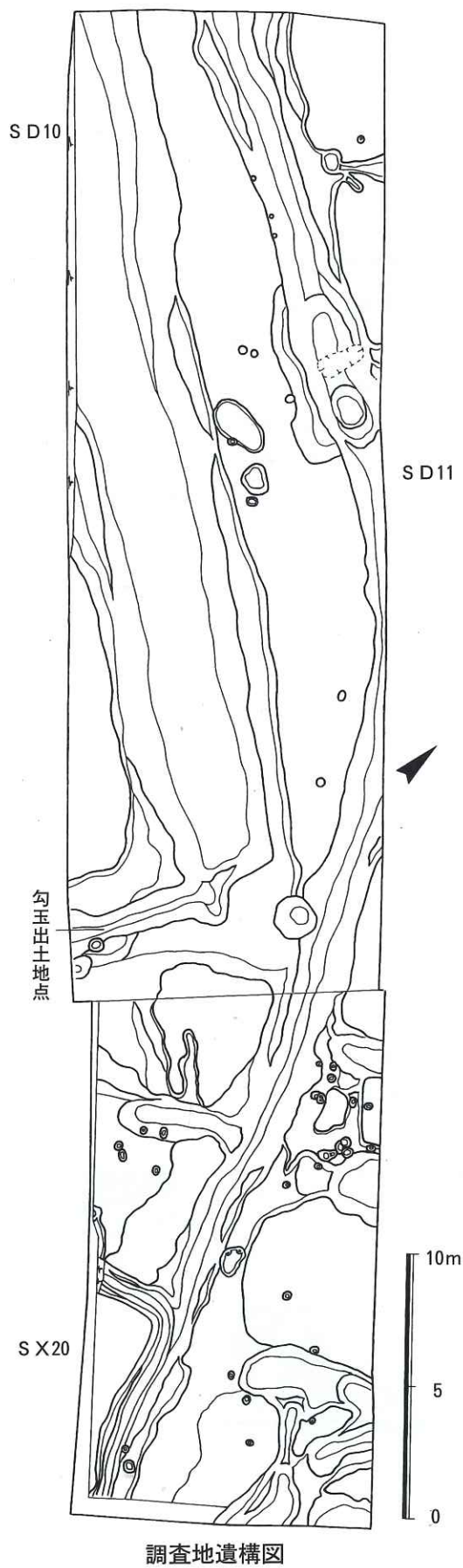
玉類は S = 1 / 1

中沢遺跡は、葉山川中流域左岸に位置し、主に弥生時代前期から古墳時代後期にかけての遺構遺物が出土している。遺構は河川、溝、墳墓群が中心であり、集落の様相は明らかとはいえない。しかしながら弥生時代から古墳時代を通じて遺物の出土量は豊富であり、中沢遺跡はこの地域における拠点集落と考えられている。

今年度の調査は過去に確認された墓域の南東側に当たる。約30cmの耕作土、10cmの黄色粘質土の床土を除去すると黄灰色粘土の地山である。地山遺構検出面の標高は95.8～96.1mを測る。

主な検出遺構は溝および方形周溝墓、土坑で、建物などは検出されなかった。

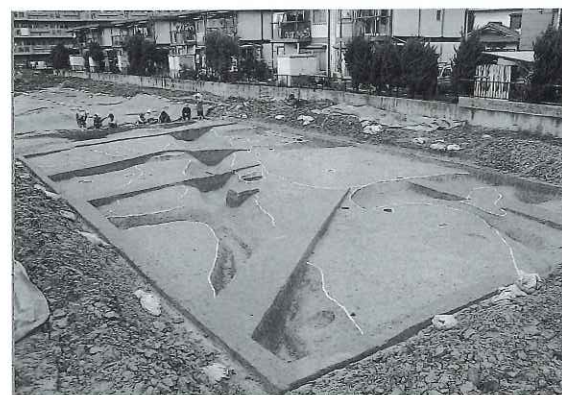
S X 20は一辺7m以上の方形周溝墓で、周溝幅は1.3m、深さ0.6mを測り、供献遺物と考えられる弥生時代後期の受口鉢2点が出土した。S D 10は最大幅6.5m、深さ1mの溝で長さ約35mに渡り検出した。全容は明らかでないが直角に折れること、水流の痕跡がないことから、大型の墳丘墓、または区画溝と考えられる。遺物は下層から弥生時代後期の壺(2は河内系)、中層から翡翠製の勾玉1点、上層からは古墳時代の須恵器や滑石製白玉の未製品、砥石が出土した。S D 11もほぼ同時期の溝である。(佐伯)



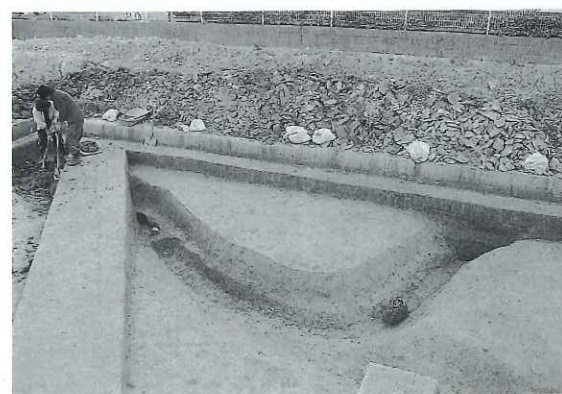
北西側調査区



SD-10 屈曲部と勾玉出土地点



南東側調査区



方形周溝墓

⑩ 縄 遺 跡

調 査 地 栗東町大字北中小路字森ノ東1819-1

調査期間 2000年 9 月25日～10月 4 日

調査面積 135m²



調査地位置図



完掘状況



調査区西半部

縄遺跡は野洲川左岸扇状地中位の標高約95m前後の微高地に立地する。

これまでの調査で主に弥生時代後期の方形周溝墓群16基が検出されていて、その中には前方後方形周溝墓2基が含まれるなど弥生時代の墓制を考える上で重要な遺跡として周知されている。また、中近世の集落もみられるが、特に14世紀以降の集落は現在の北中小路集落と重複しており、それを囲う幅2～5mの環濠が長さ60mに渡り検出されている。

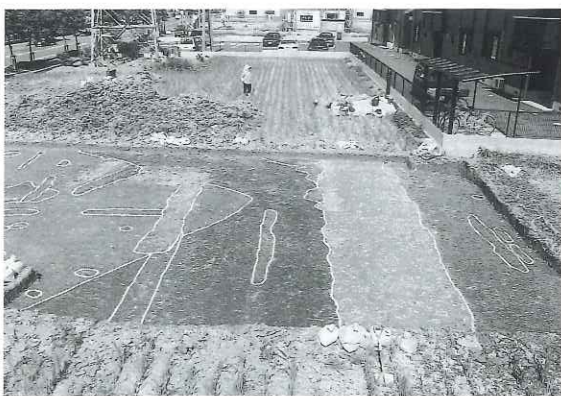
今年度の調査地は集落を囲む環濠の東外側にあたる。約20cmの耕作土直下が地山遺構検出面の黄灰色粘質土で、標高は94.5mである。

検出遺構は、方形周溝墓1基、溝数条、掘立柱建物2棟以上、土坑などである。

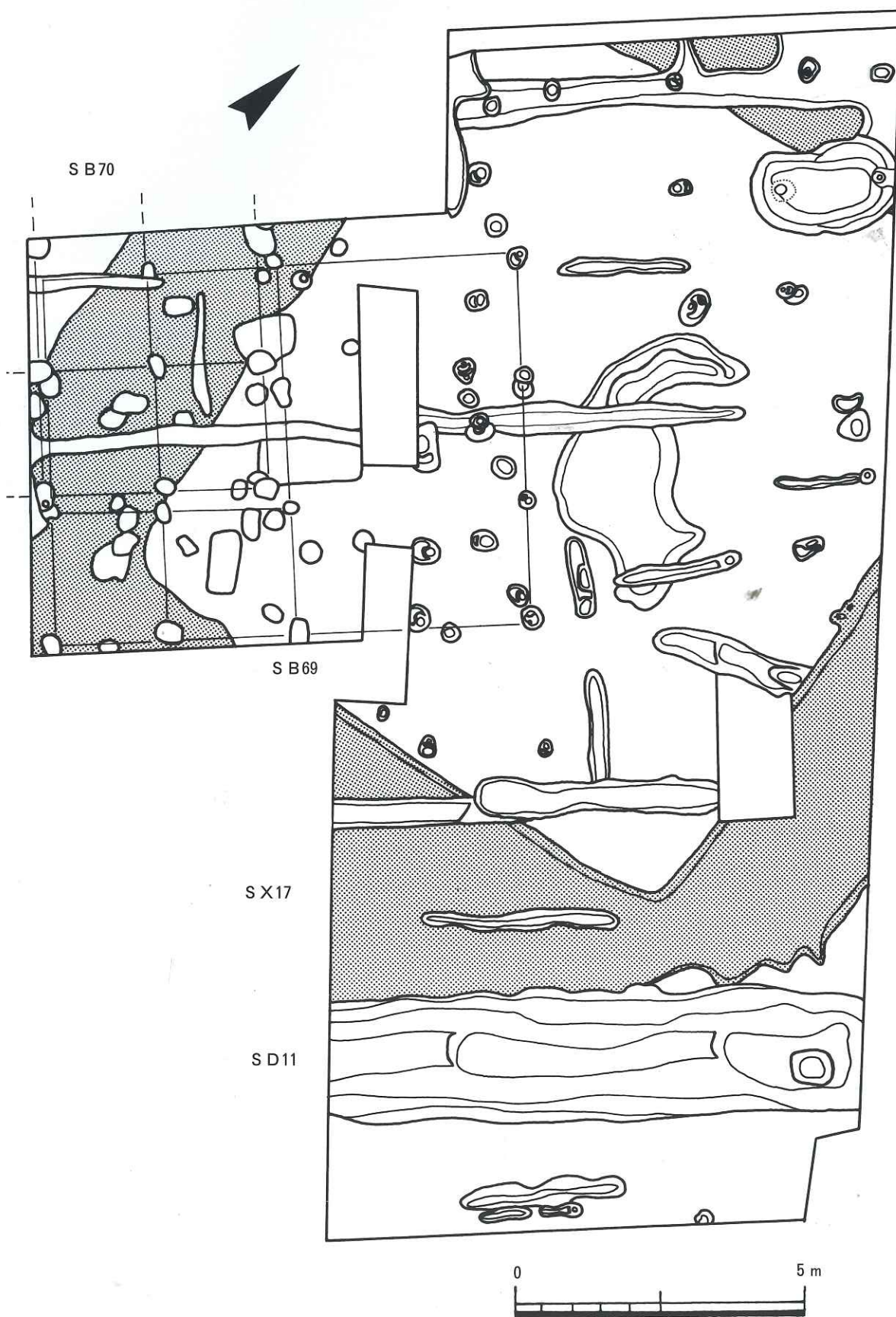
方形周溝墓S X17は11×12m、周溝幅3～4.5m以上。周溝の深さは調査区北端の周溝で0.5mを測るが、その他の部分は、検出面から約0.2mで礫層となっており周溝の掘削も礫面で止めていて浅い。墳丘裾の埋土は、墳丘の崩落土であるブロック状の土層が認められた。弥生土器片が出土したが、時期は特定できない。従来確認されていた墓域は、北側に150m程離れており、新たな墓域の確認となった。

掘立柱建物S B70は12世紀、S B69は13世紀代の黒色土器碗、土師器皿が出土した。溝S D11は掘立柱建物にともなう区画溝と思われる。青銅製の小碗が破片で出土した。

(佐伯)



調査区東半部



調査地遺構図

⑪ 十里遺跡

調査地 栗東町大字十里393-1他

調査期間 2000年6月26日～9月22日

調査面積 2500m²



調査地位置図

十里遺跡は、栗東町域の北西端部に立地する。町内では最も琵琶湖に近く、標高は89m程である。

今年度の調査は、住宅地造成に先立ち実施した。調査区は北側をN区、南側をS区とし、面積は2,500m²である。確認された遺構は、近代の土取り穴と弥生時代後期後半のものに限定される。

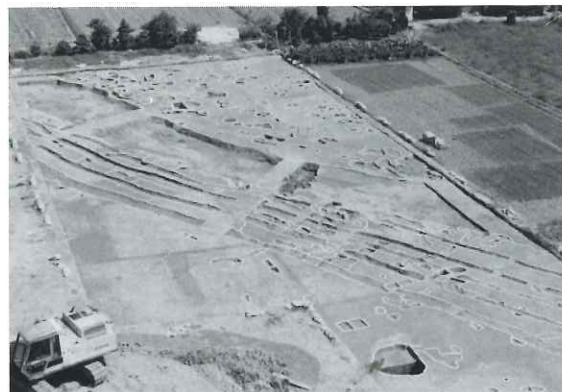
S区では調査区の中央を東から西へ河川が流れ、その河川を挟んで南側に土坑群、北側で溝を数条検出した。北西側は近代土取り坑と井戸を検出した。

河川SR12は幅6mから8m、深さ1.3m。逆台形の断面形態は、自然流路でありながらも人の手が加えられたかに見える。下層の砂粒層などから弥生土器(11～23)が出土した。11・12・13は手焙形土器。18・19の鉢は近江北部からの搬入品である。その他建築部材、鋤の泥除けなどの木器が出土した。

土坑群は約160基検出された。円形と不整形のものがあり平面規模は数十cmから数m。



調査風景(南側)



調査区南側

深さは深いもので40cm程である。円形の土坑には炭層が見られた。不正形のものについては粘土の採取穴等であろうか。弥生時代後期末の遺物(3～10)が出土した。

溝SD25は、幅0.6m～1m、深さ10～20cmの規模で、河川と平行に掘られた溝には、人の足跡の他に三日月形の痕跡が多数残存していた。溝の掘削時や土浚いの際に付いた農耕具跡と考えられる。受口甕と庄内甕が出土した(1・2)。

それぞれの遺構の関係は、河川の上層が土坑群、溝群を切っている。出土遺物を見ると、弥生時代後期後半から末で、河川→土坑群→溝の順を追える。N区の遺構密度は低く、近代の長方形土坑が5基検出された。(佐伯)



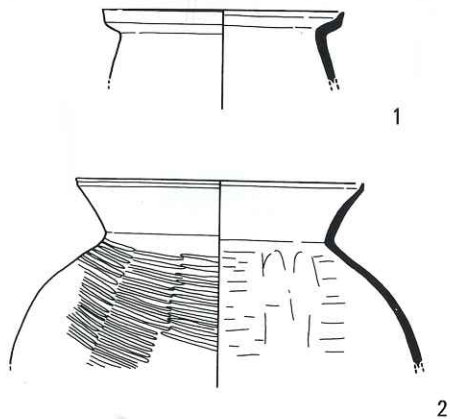
河川 S R 12 木器出土状況



溝を西側から撮影

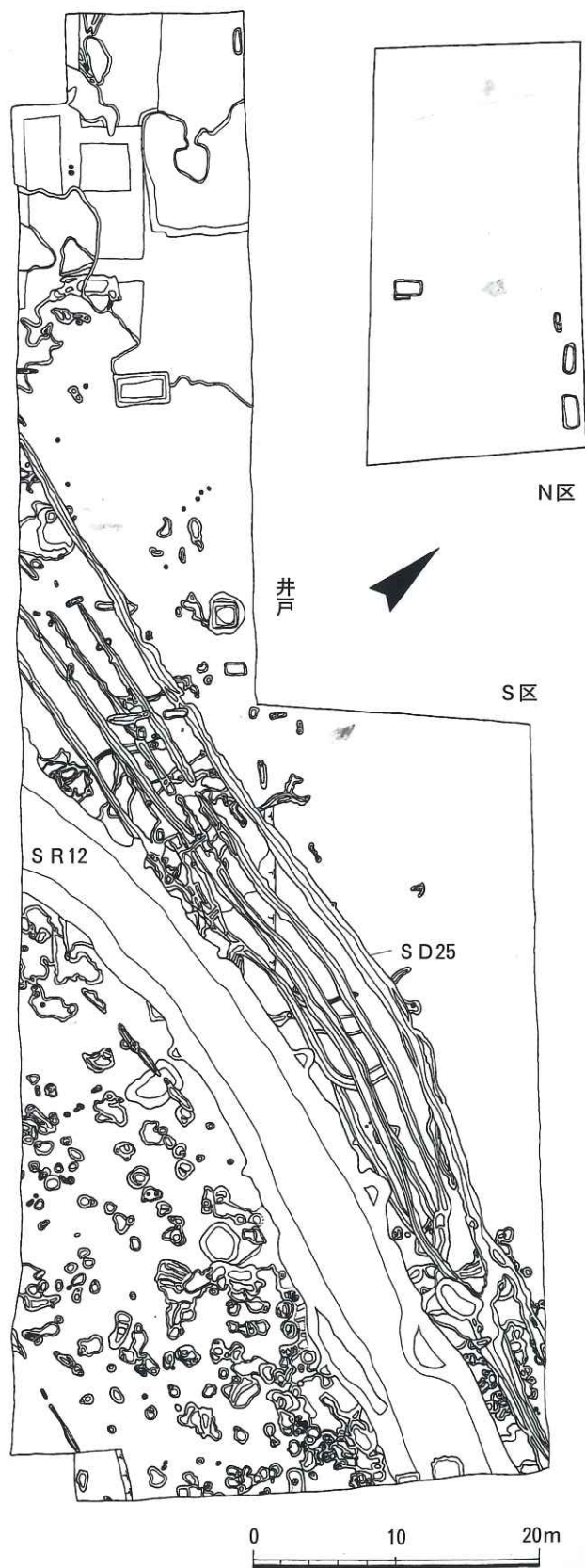


溝 S D 25 農具痕跡

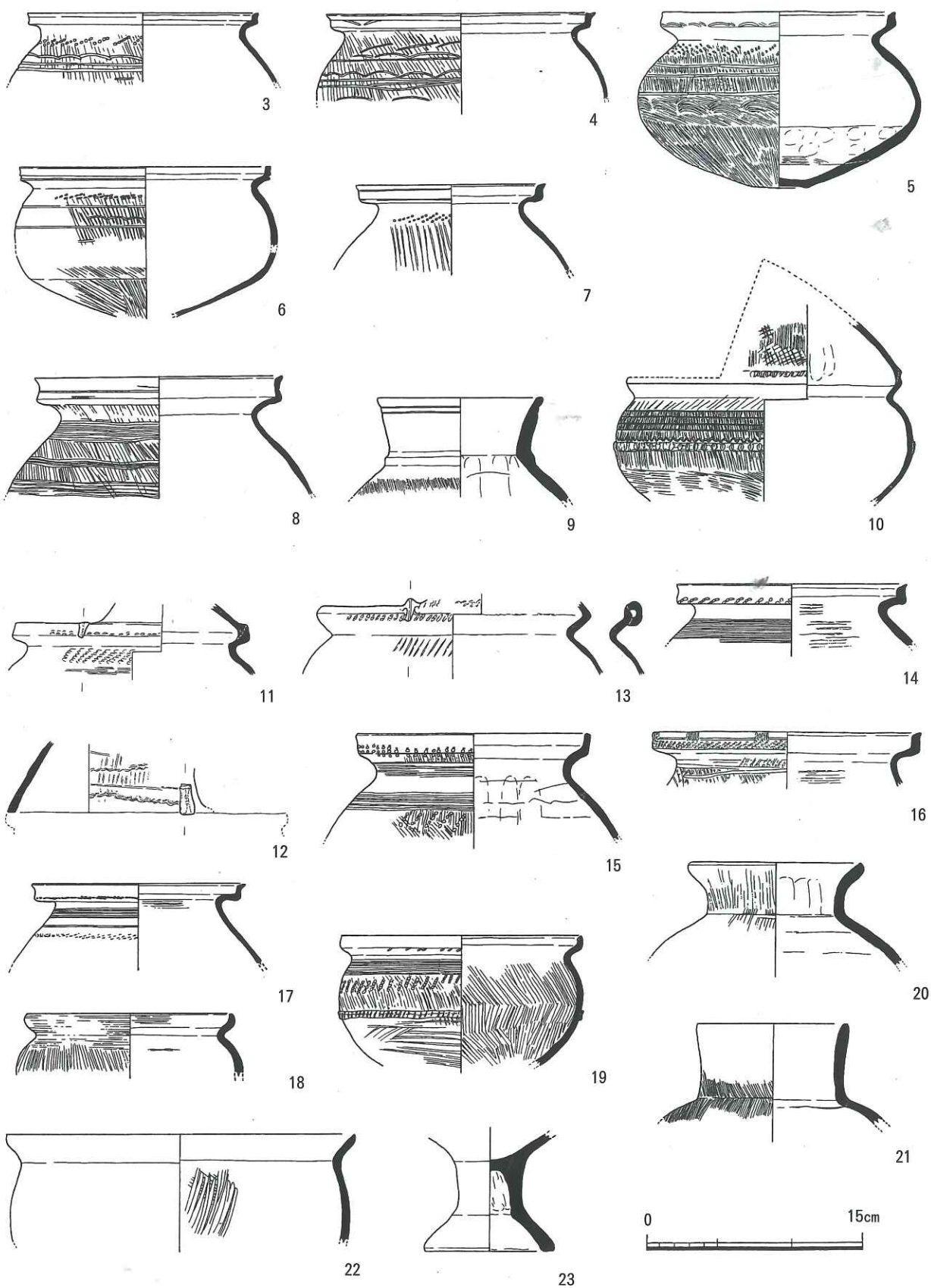


0 15cm

出土遺物実測図 (溝)



調査地遺構図



出土遺物実測図（3～10 土坑群、11～23 S R12）

国庫補助事業・町事業 埋蔵文化財発掘調査

町事業 国庫補助事業調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	調査原因	現地調査機関	調査面積	調査結果	ページ	担当
12	辻	出庭2014	農業倉庫 建築	2000.10.24～2000.11.10	100㎡	竪穴住居（古墳）、溝、柱穴（平安）	40	藤岡
13	下戸山古墳	下戸山字野海道1542-1他	宅地造成	2000.10.12～2000.11.8	307㎡	溝、柱穴（平安）	41	佐伯
14	小槻大社 古墳群	下戸山字宮ヶ谷	測量	2000.2.8～2001.2.23	8300㎡	古墳11基測量	42	佐伯
15	霊仙寺	霊仙寺 283	住民参加 体験学習	2000.8.18～2000.8.23	13㎡	溝（弥生）	44	調査会

⑫ 辻 遺 跡

調 査 地 栗東町大字出庭2014

調査期間 2000年10月24日～11月 10日

調査面積 100m²



調査地位置図

本調査地は、辻遺跡の範囲でも北端にあたり、北東250mの1996年度調査区では、古墳時代の竪穴住居や掘立柱建物が検出されている。

基本層序

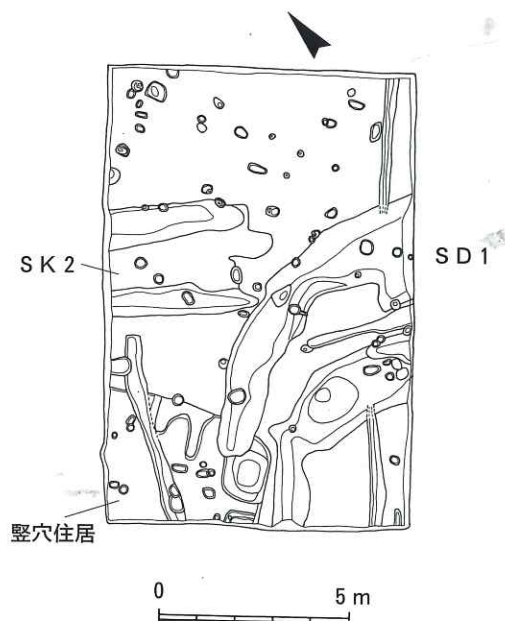
調査地の基本層序は、層厚15cmの耕土を経て、黄褐色粘質土の地山（遺構面）に至る。

主要遺構の概要

主要遺構について概述すると、竪穴住居は5m以上×3.5m以上の規模で、カマドと貯蔵穴を検出した。貯蔵穴からは古墳時代の高杯が出土した。

竪穴住居の後出するSD-1は、出土遺物が無く、時期・性格とも不明であるが、周溝墓の可能性を追求する必要がある。

ピットの時期も不明である。近代以降は、煉瓦採掘用の土取りが盛んに行われ、地山もかなり掘削され、採掘土坑としてSK-2が検出された。
(藤岡)



調査地遺構図



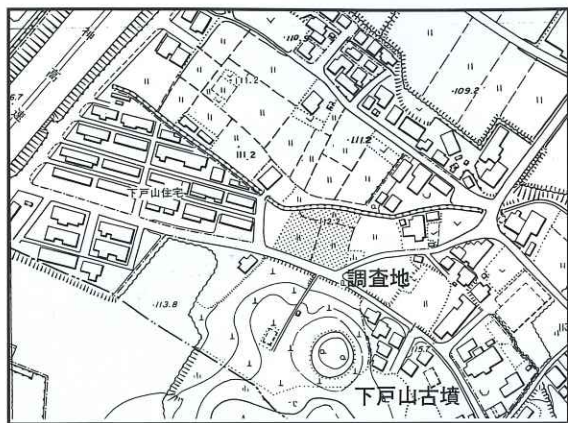
調査地全景

⑬ 下戸山古墳遺跡

調査地 栗東町大字下戸山字野海道1542-1他5筆

調査期間 2000年10月12日～11月8日

調査面積 307m²



調査地位置図

本調査は⑦下戸山古墳遺跡調査に伴い実施した。栗太郡衙域の確認と南に隣接する下戸山古墳に関連する古墳の存在を想定して確認調査を行ったが、律令期および古墳時代の遺構は検出できなかった。中近世の柱穴、土坑、溝を確認した。掘り込みは行っていない。

(佐伯)



東側調査区全景



溝検出状況



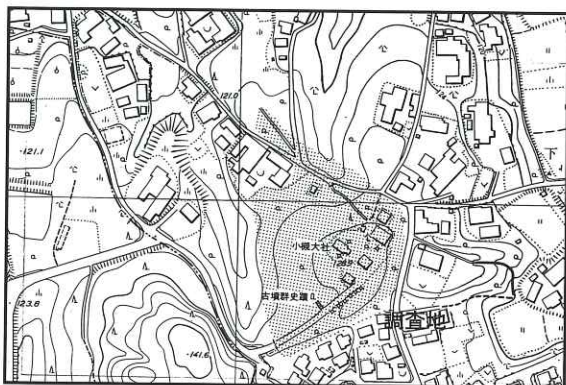
西側調査区全景

⑭ 小槻大社古墳群

調査地 栗東町大字下戸山字宮ヶ谷

調査期間 2000年2月8日～2月23日

調査面積 8300m²



調査地位置図

小槻大社古墳群は下戸山の丘陵上に築かれた古墳群で、式内社の小槻大社境内を中心に十数基が分布している。同一丘陵上には、北谷11号墳（105m前方後円墳？）や下戸山古墳（52m円墳？）、地山古墳（90m帆立貝形）、などの4世紀後半から5世紀前半にかけての首長墓が築かれている。小槻大社古墳群は、これらの首長墓群に続く古墳群で、在地の有力氏族である小槻氏に関係が深い墳墓である。

過去に発掘調査が実施された古墳は、境内地からは小谷を隔てて存在した10号墳（1999年度）1基のみである。15.5m×13.5mの方墳で、2基の割竹形木棺から鉄剣1振と竖櫛1点が出土。周溝からは供献された須恵器の角杯と壺が出土した。5世紀後半の築造である。

今年度の調査は、小槻大社の協力のもと境内地を中心にした古墳および周辺地形の測量調査を実施した。

測量した古墳または古墳状の高まりは11基で、分布は境内に7基、その周辺に4基である。

群中最大の1号墳は墳頂に祠と1m四方の石が数個置かれている。墳形ははっきりしないが25m以上、高さも3m程残存している。



重要文化財小槻大社本殿



1号墳

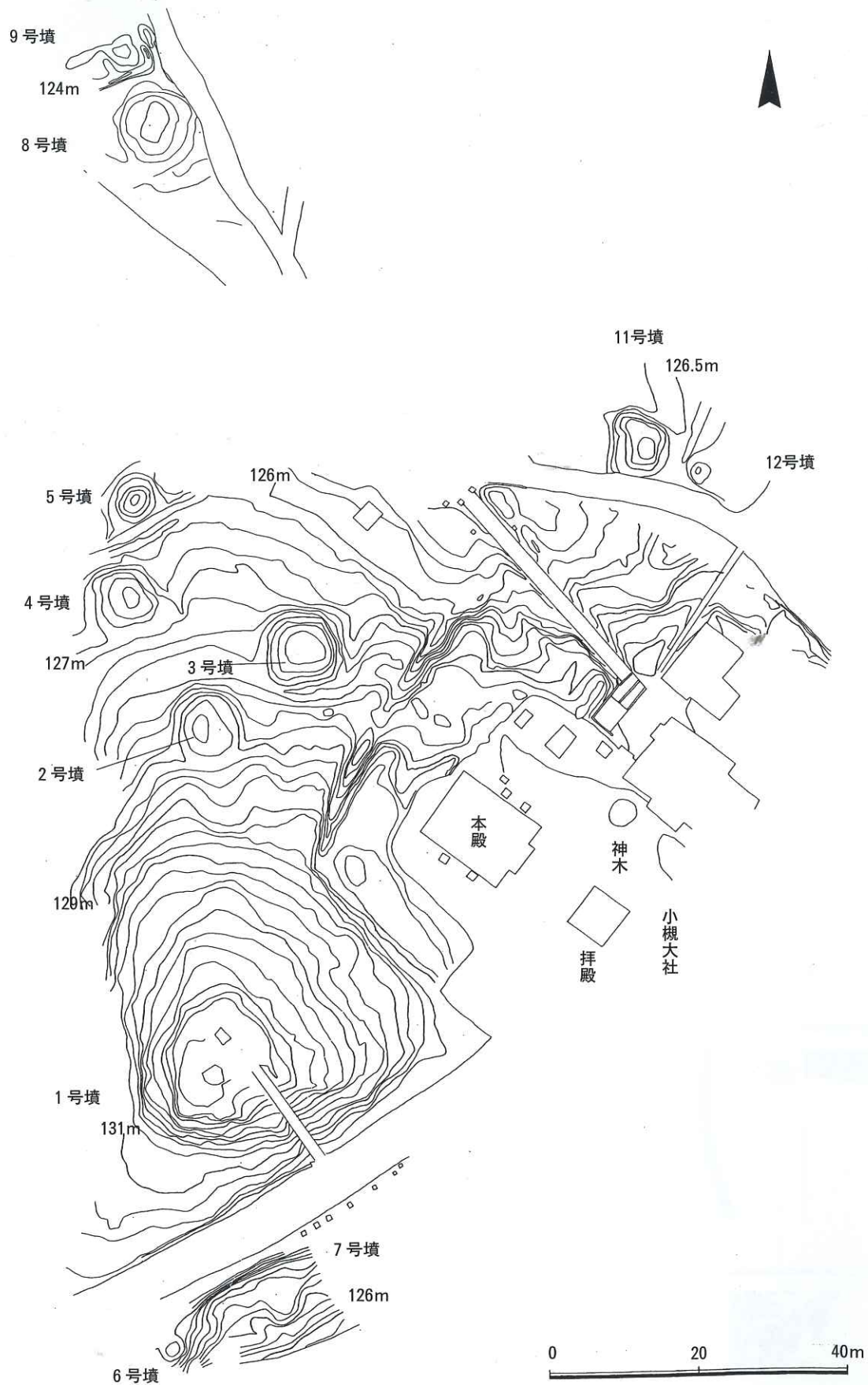


2号墳

1号墳以外の古墳は10mから14m程の方墳または円墳で、2基1セットで築造されている。多くは墳丘に乱れもなく石材の露出なども認められないため、横穴式石室以外の主体部を持つと思われる。未盗掘の可能性が非常に高く、極めて重要である。

その他未測量の古墳4基と10号墳など既に消滅した古墳3基があり、小槻大社古墳群は18基以上の古墳群であることが確認された。

（佐伯）



小槻大社古墳群地形測量図

⑮ 霊仙寺遺跡

調査地 栗東町大字霊仙寺283

調査期間 2000年8月18日～8月23日

調査面積 約13m²



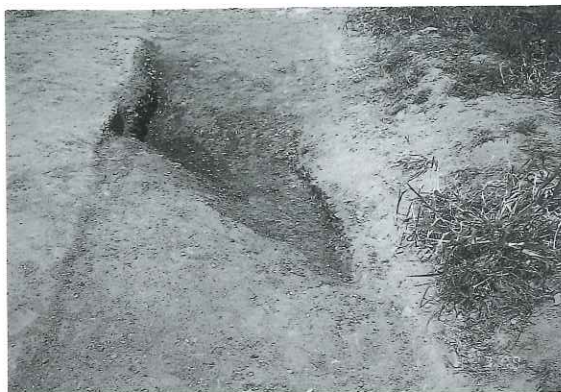
調査地位置図

本調査は、霊仙寺地先に残る寺院伝承地の実態を明らかにすることを目的とした、住民参加による発掘調査事業の3次調査である。

今回検出されたのは東西方向の溝で、幅2.0m、遺構面からの深さは0.4mを測る。限られた面積での掘削であったものの、溝からは弥生時代前期の土器を中心に、コンテナ2箱程度の土器が出土した。ほかに打製石鏃1点などの石器も出土している。(雨森)

参考文献

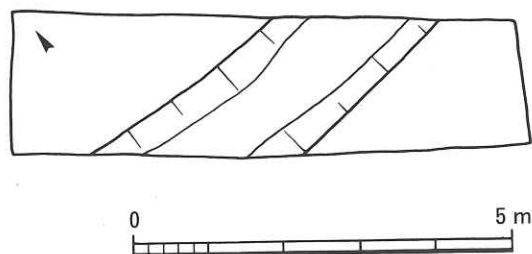
霊仙寺遺跡調査会『住民参加による発掘調査 霊仙寺遺跡発掘調査記録Ⅲ』2001



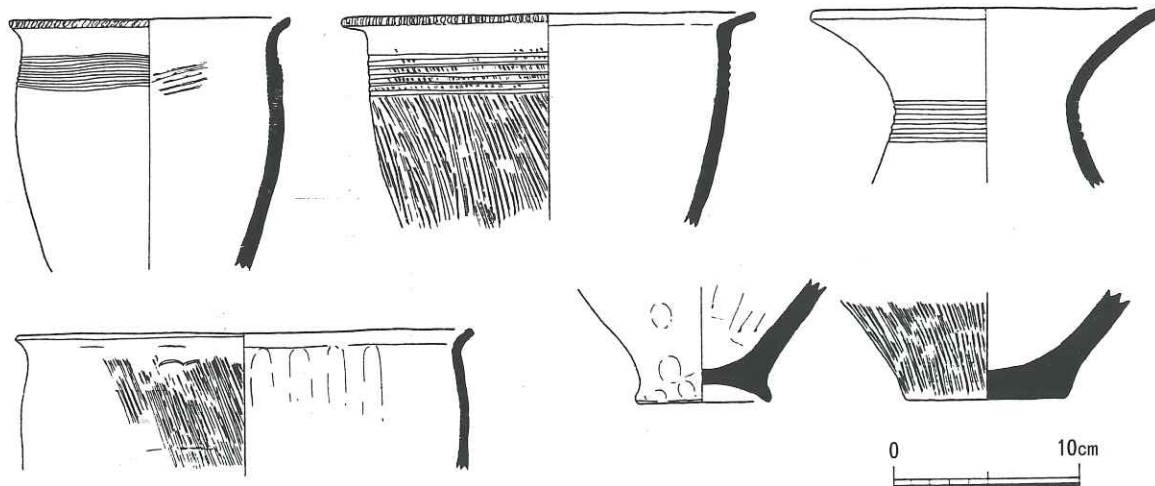
溝全景



調査風景



調査地遺構図



出土遺物実測図

栗東町埋蔵文化財発掘調査

2000年度 年 報

発 行 日 2001年（平成13年）11月1日

編集・発行 (財)栗東市文化体育振興事業団

埋 蔵 文 化 財 調 査 課

滋賀県栗東市下戸山47番地 〒520-3011

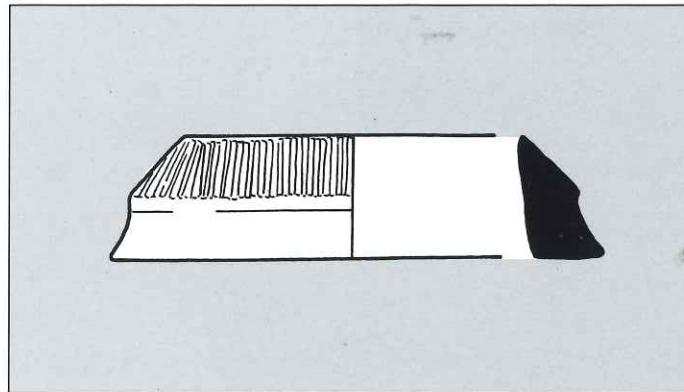
栗東市出土文化財センター内

TEL 077-553-3359 FAX 077-553-3514

印刷・製本 中 村 印 刷 所

滋賀県栗東市下鉤681-5 〒520-3026

TEL 077-552-2420



辻遺跡①出土石鋤 (S = 1 / 1)